

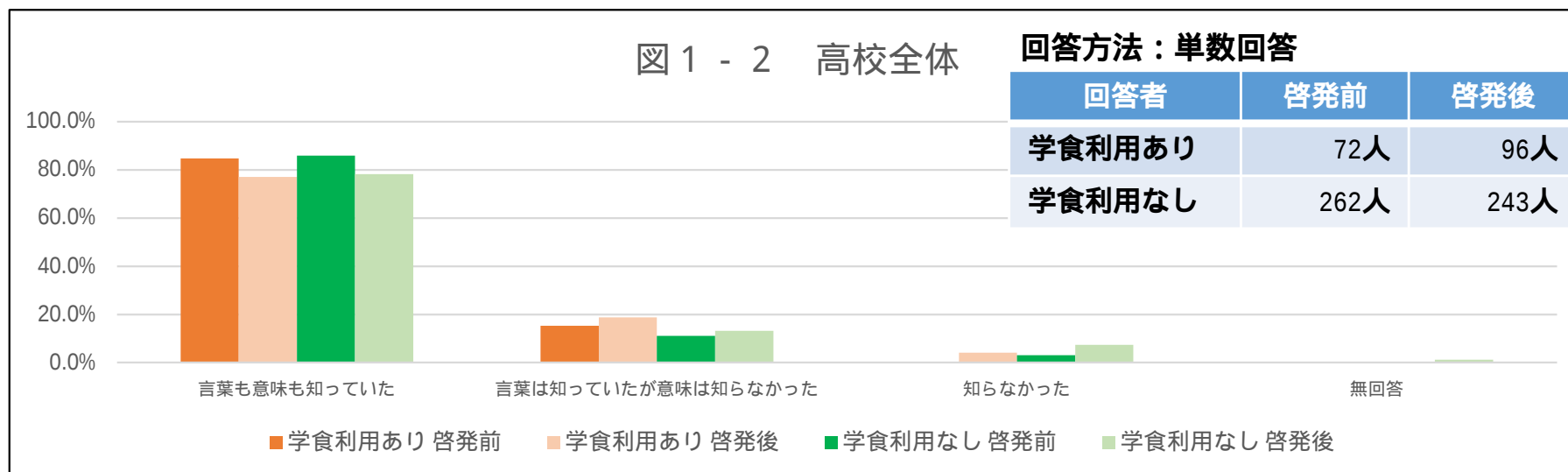
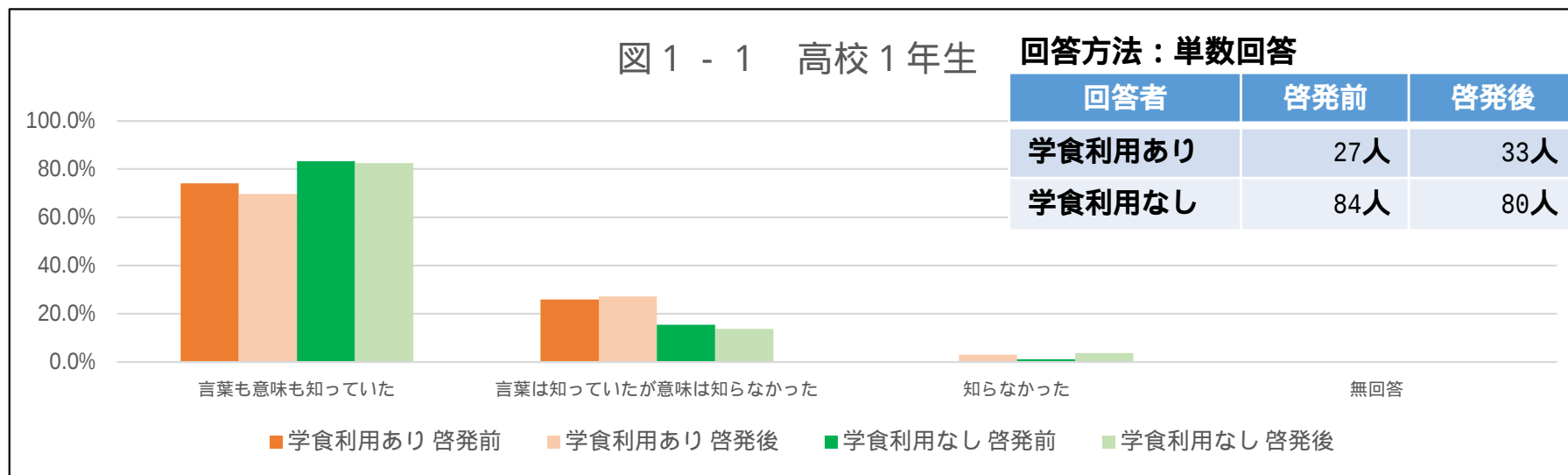
学生の手で創出「学生食堂循環サイクル」

(別添)第1回、第2回アンケート の個別結果



2024年2月

Q1.あなたは、「食品ロス」という言葉とその意味を知っていますか？



高校全体には、1年生を含む。以下の集計でも同様。

図 1 - 3 大学・短大 1 年生 回答方法：単数回答

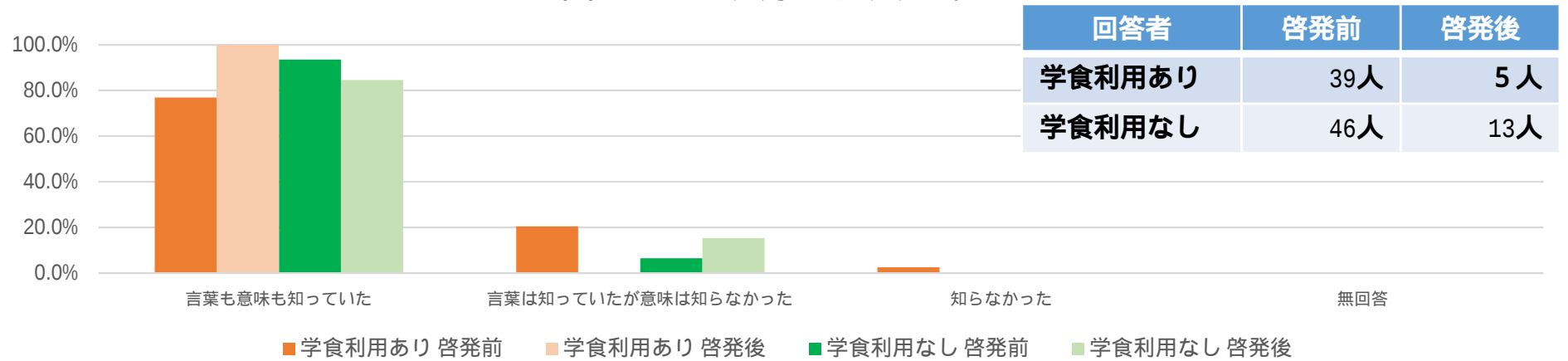
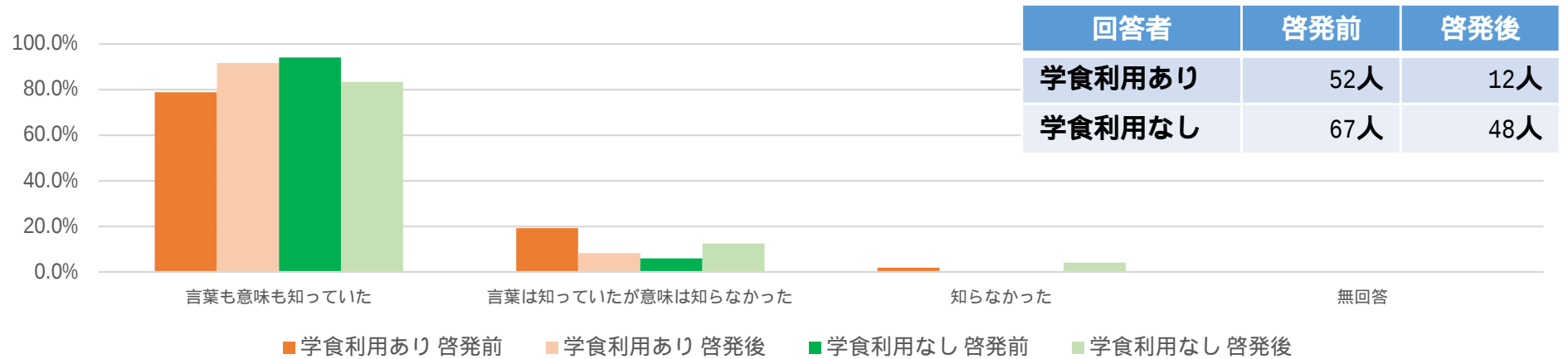


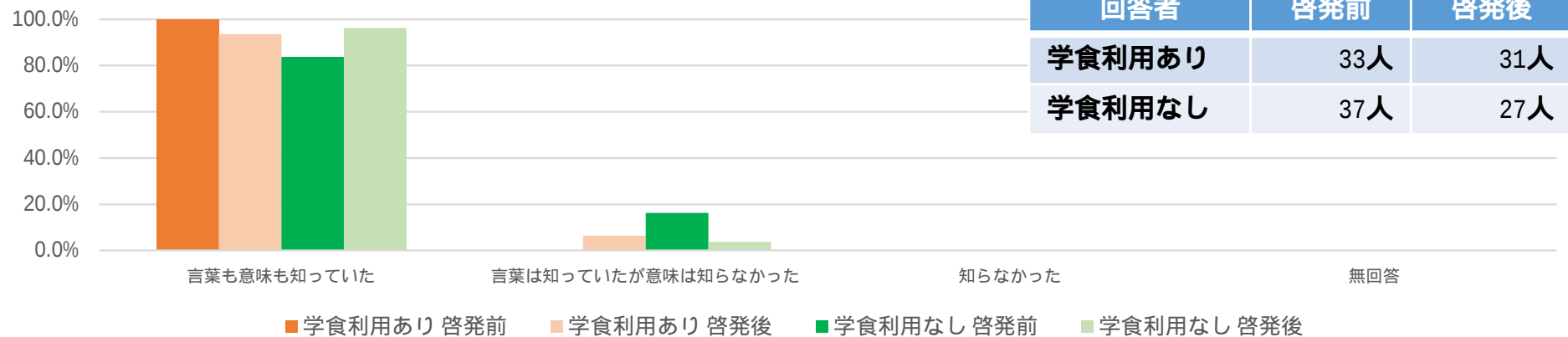
図 1 - 4 大学・短大全体 回答方法：単数回答



大学・短大全体には、1年生を含む。
また、大学・短大については回答数が限られ、また啓発前後で回答者数の差が大きいことから、
啓発前後での学生意識の比較・考察は「高校生」の結果を用いることとする。以下の集計でも同
様。

図 1 - 5 教職員

回答方法：単数回答



考察

啓発の有無、学生食堂の利用の有無に関わらず、全体的に、「言葉も意味も知っていた」という人が69.7%～100%と高い。

Q2.あなたは、「食品ロス」を減らすべきだと思いますか？

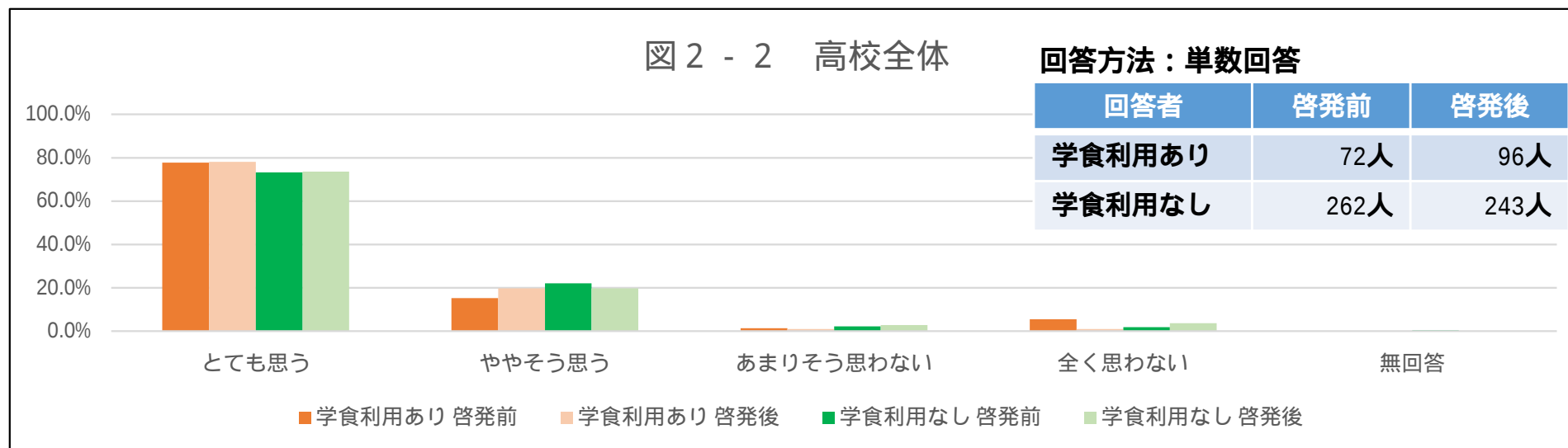
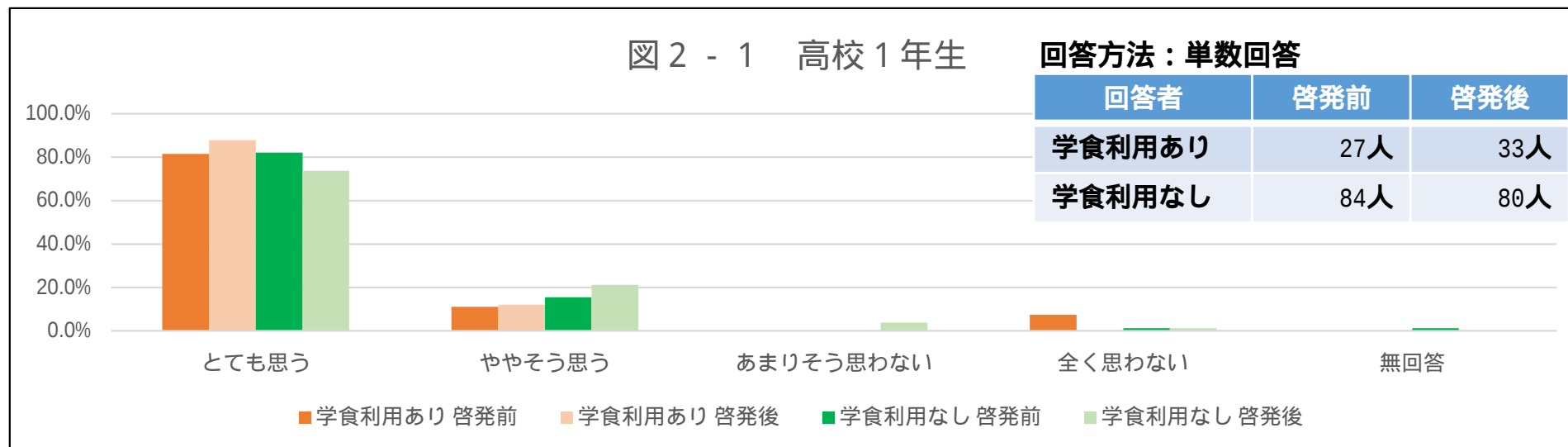


図 2 - 3 大学・短大 1 年生

回答方法：単数回答



図 2 - 4 大学・短大全体

回答方法：単数回答

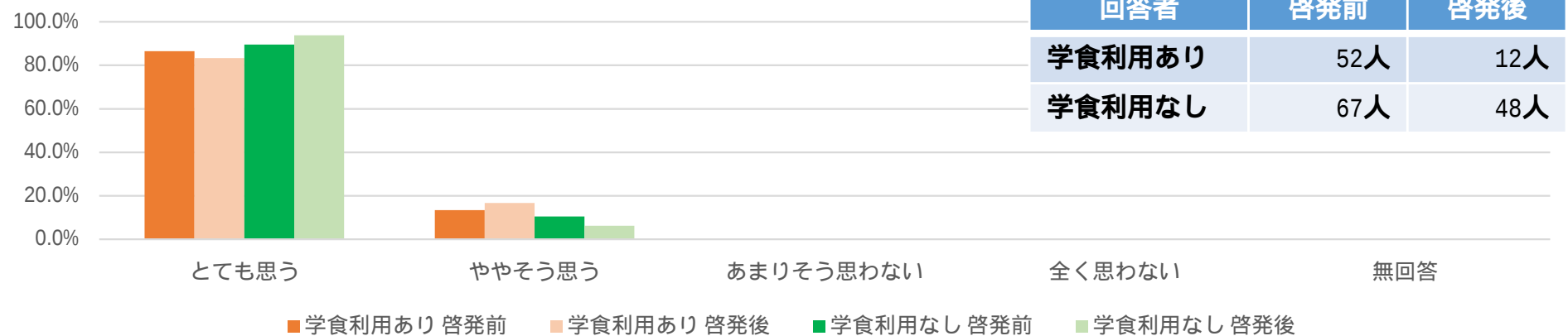
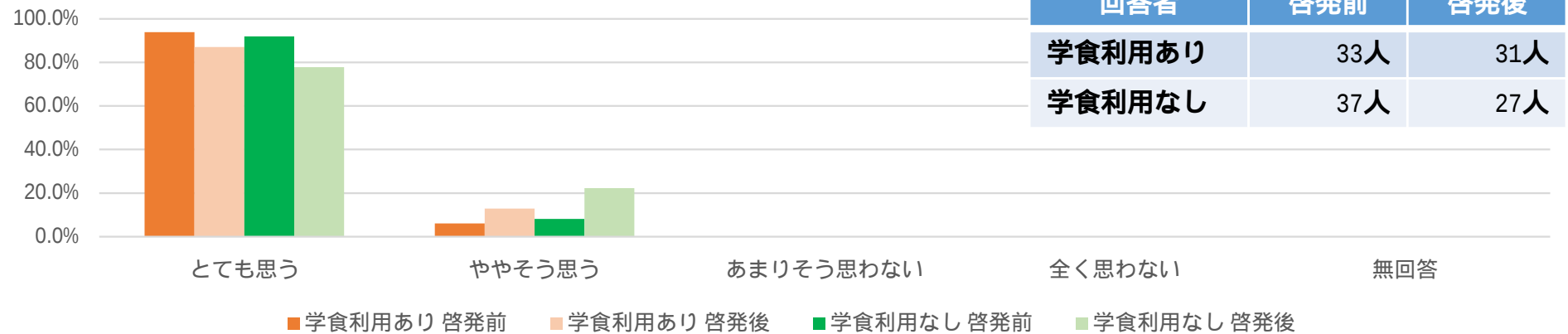


図 2 - 5 教職員

回答方法：単数回答



考察

啓発の有無、学生食堂の利用の有無に関わらず、全体的に、食品ロスを減らすべきだと思うかについては、「とても思う」「ややそう思う」と回答した割合は、90%以上と高い。

Q3.食生活の中で「もったいない」と思う状況について教えてください。

1) 自分又は自分の家族等が食べ残したのを見たとき

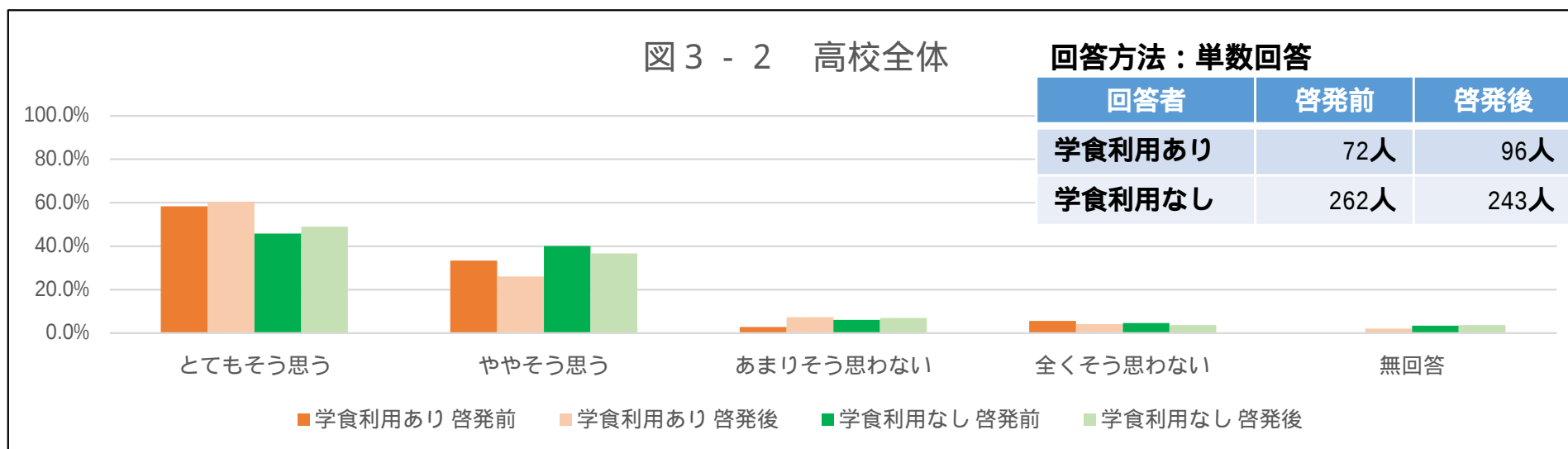
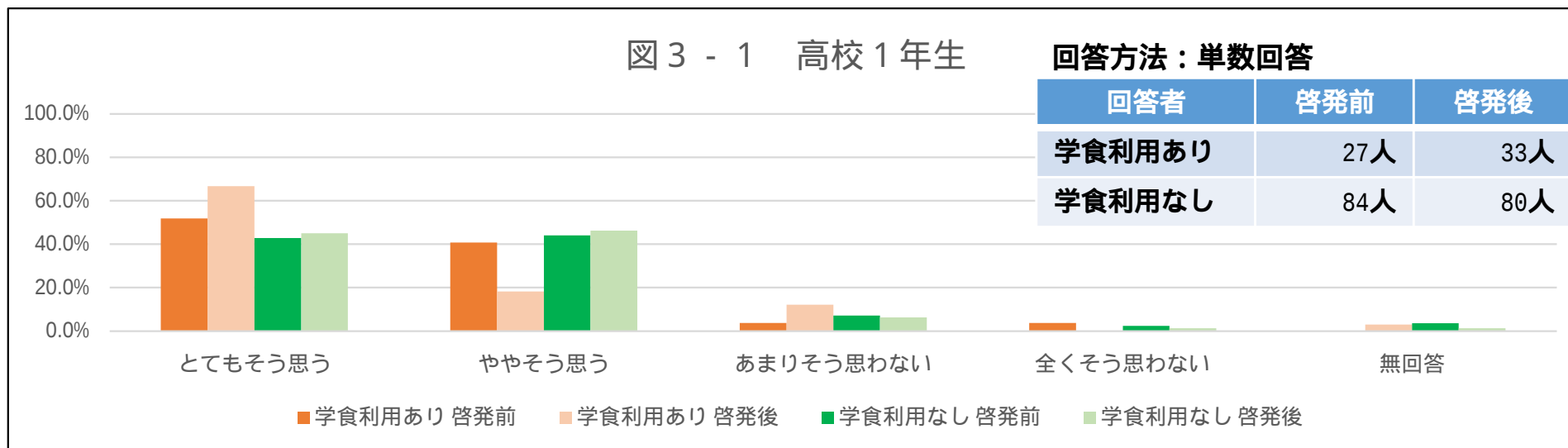


図3-3 大学・短大1年生 回答方法：単数回答

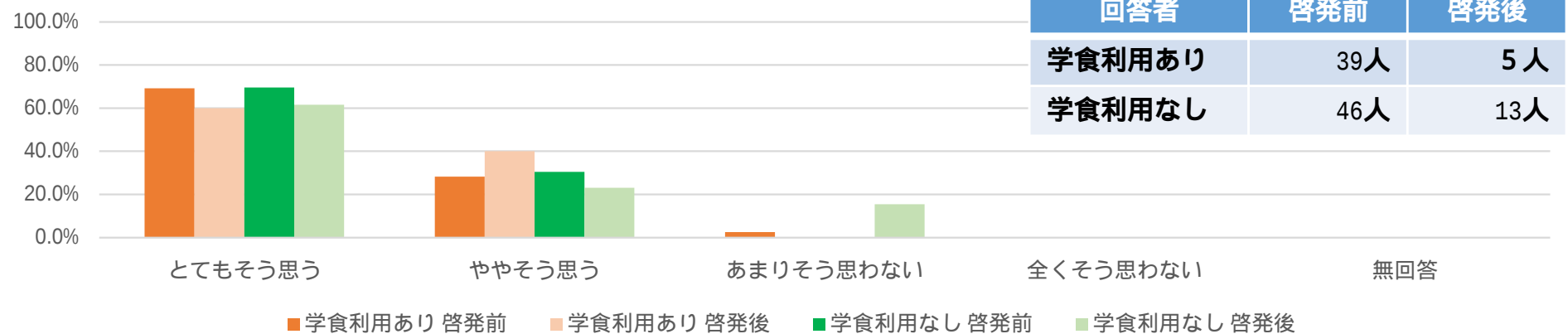


図3-4 大学・短大全体 回答方法：単数回答

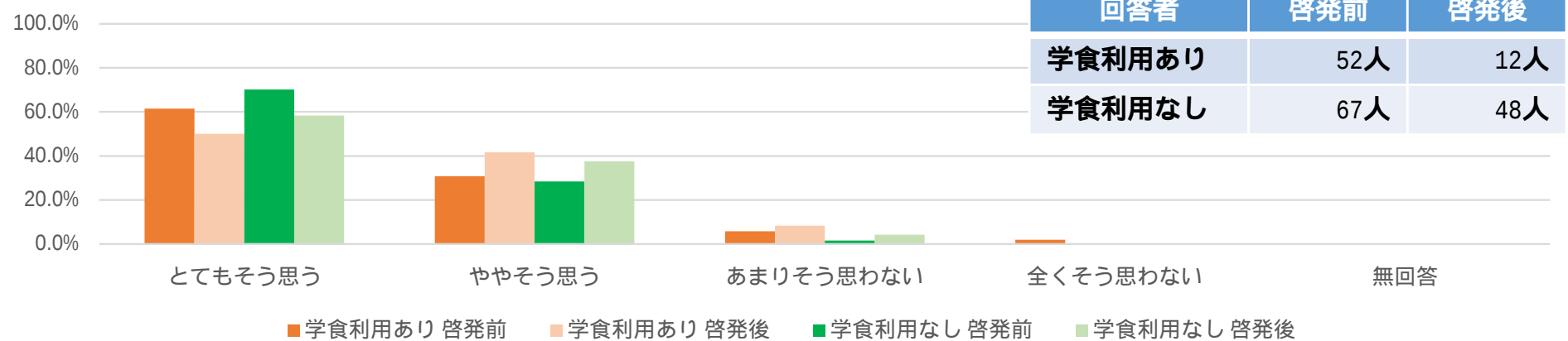
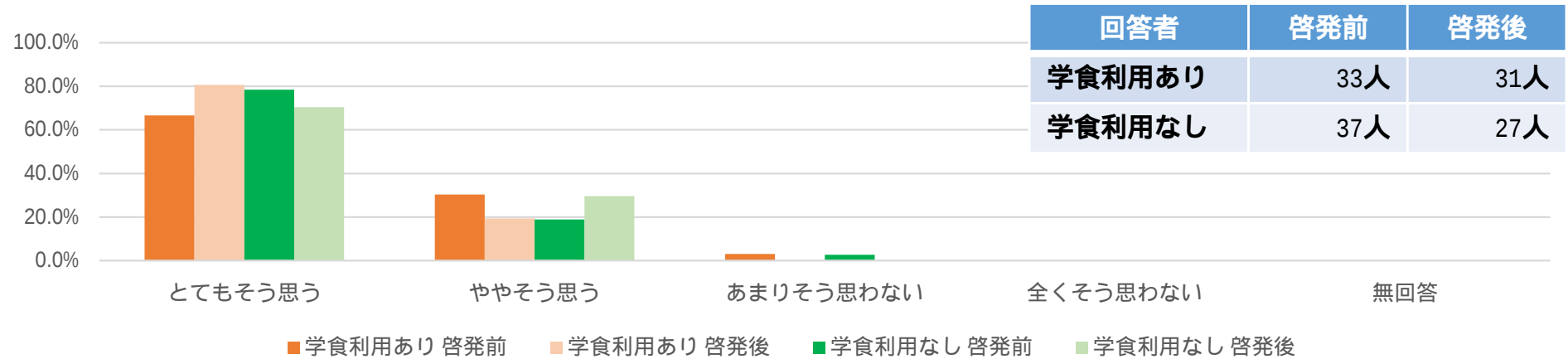


図 3 - 5 教職員

回答方法：単数回答



考察

啓発の有無、学生食堂の利用の有無に関わらず、全体的に、「とても思う」

「やや思う」割合は85%以上と高い。

特に高校1年生の学食利用者が「とても思う」と回答した割合が啓発後、増加しており、啓発効果があったと考えられる。

2) レストラン等で他人の食べ残したものを見たとき

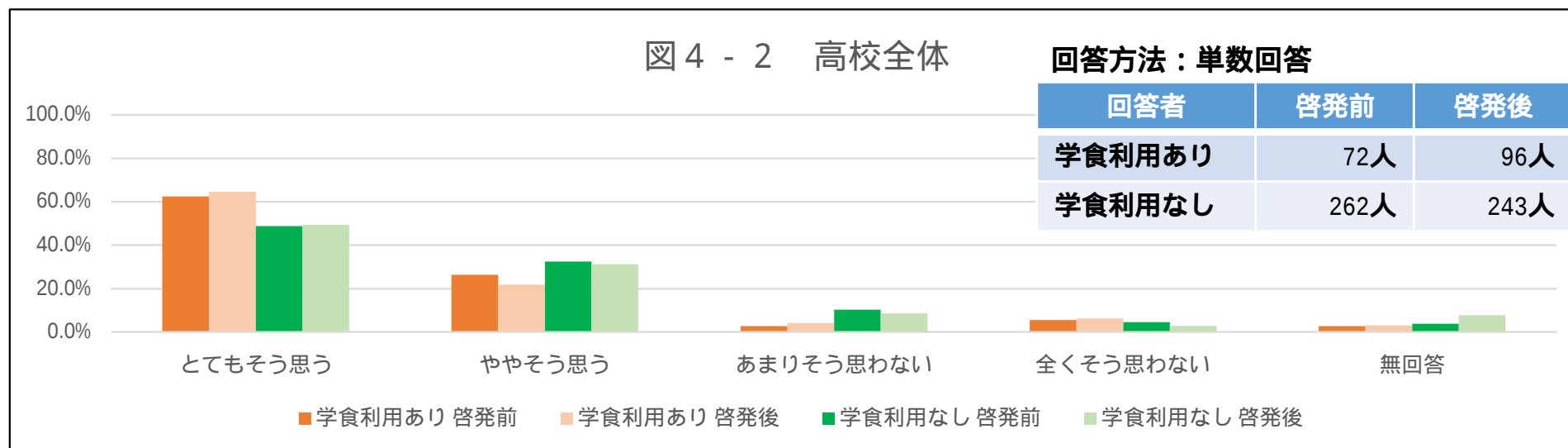
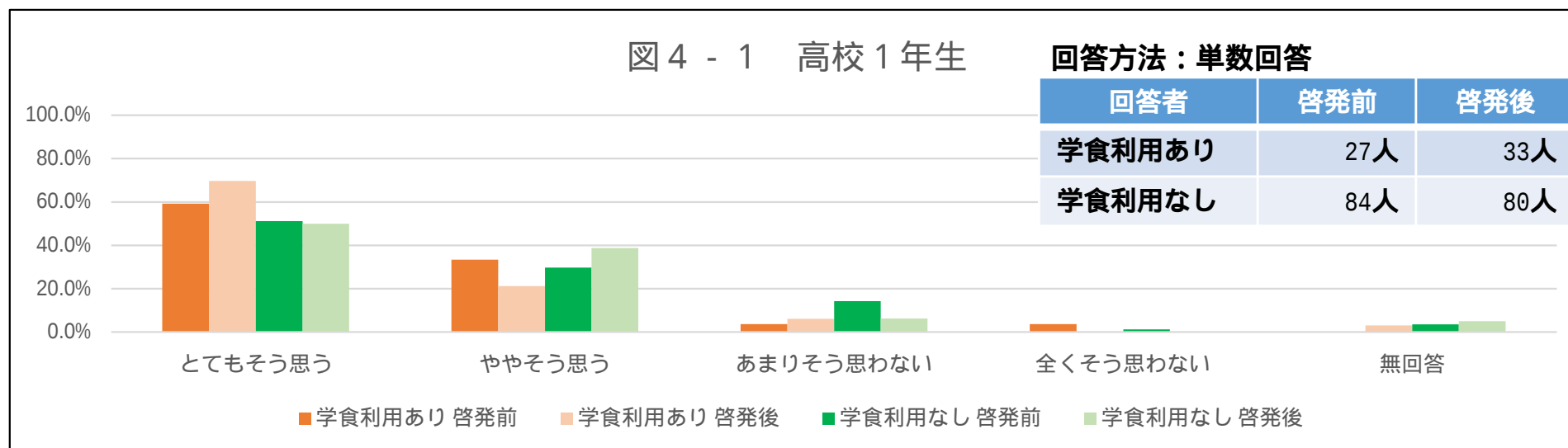


図4 - 3 大学・短大1年生 回答方法：単数回答

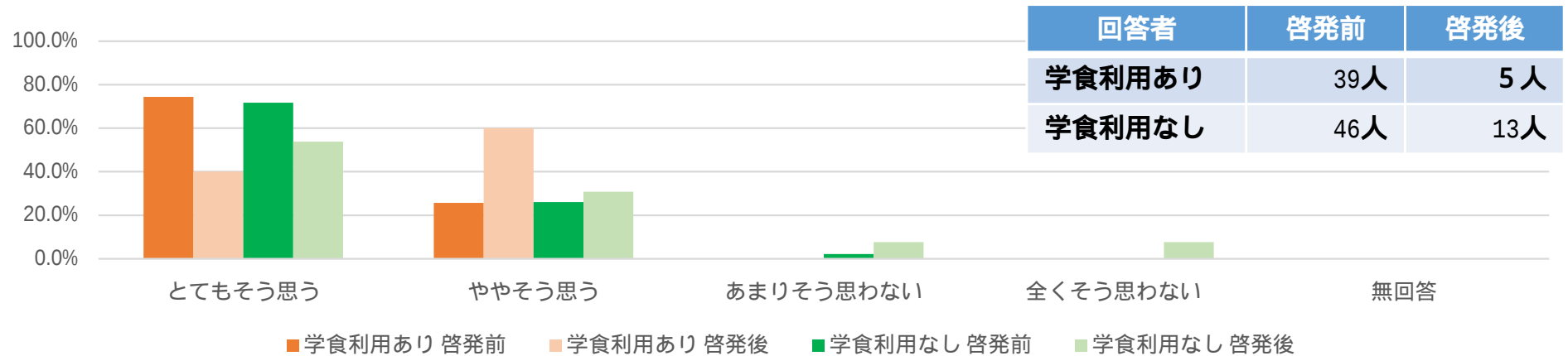


図4 - 4 大学・短大全体 回答方法：単数回答

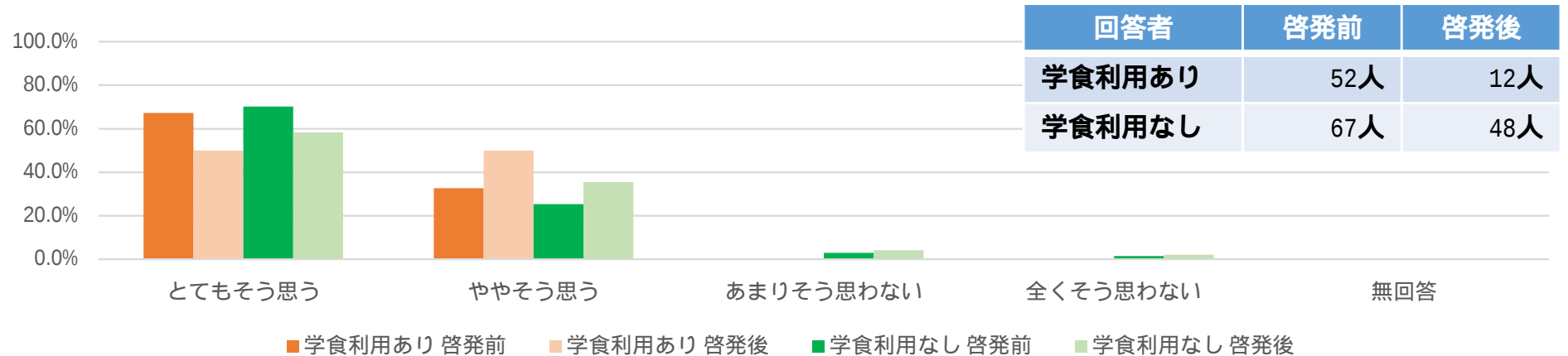
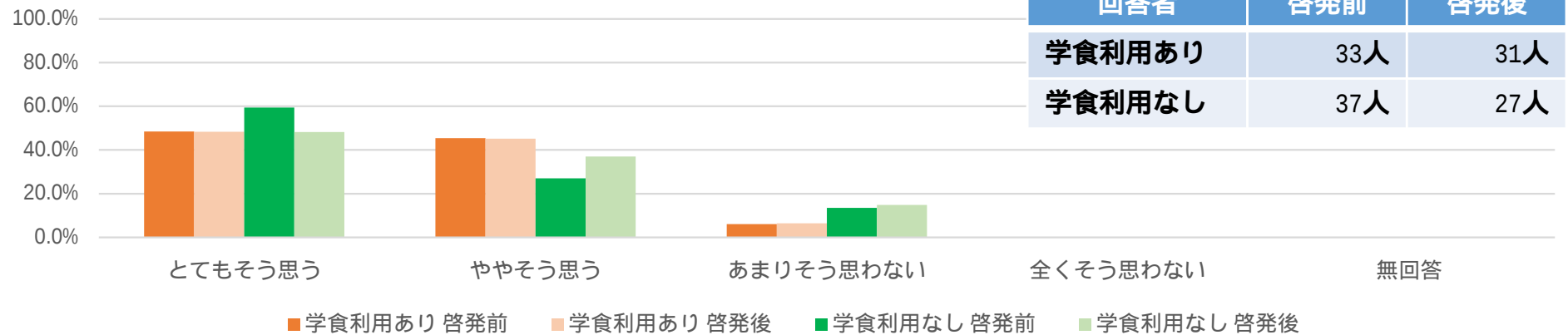


図 4 - 5 教職員

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	33人	31人
学食利用なし	37人	27人



考察

啓発の有無、学生食堂の利用の有無に関わらず、全体的に「とても思う」「やや思う」割合は80%以上と高い。

3) 期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき

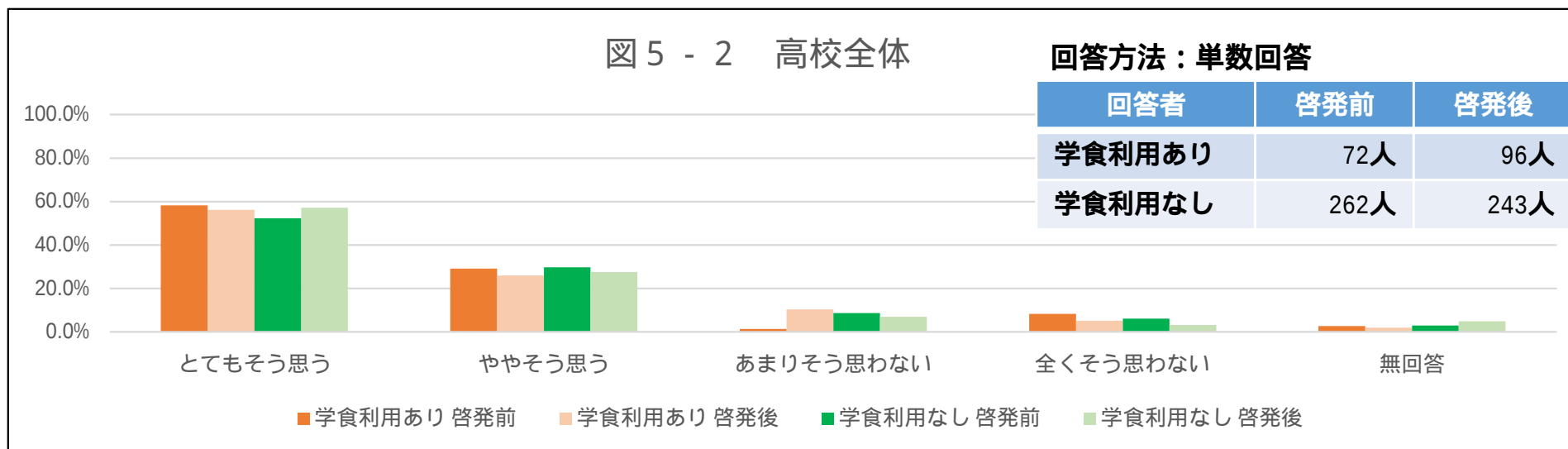
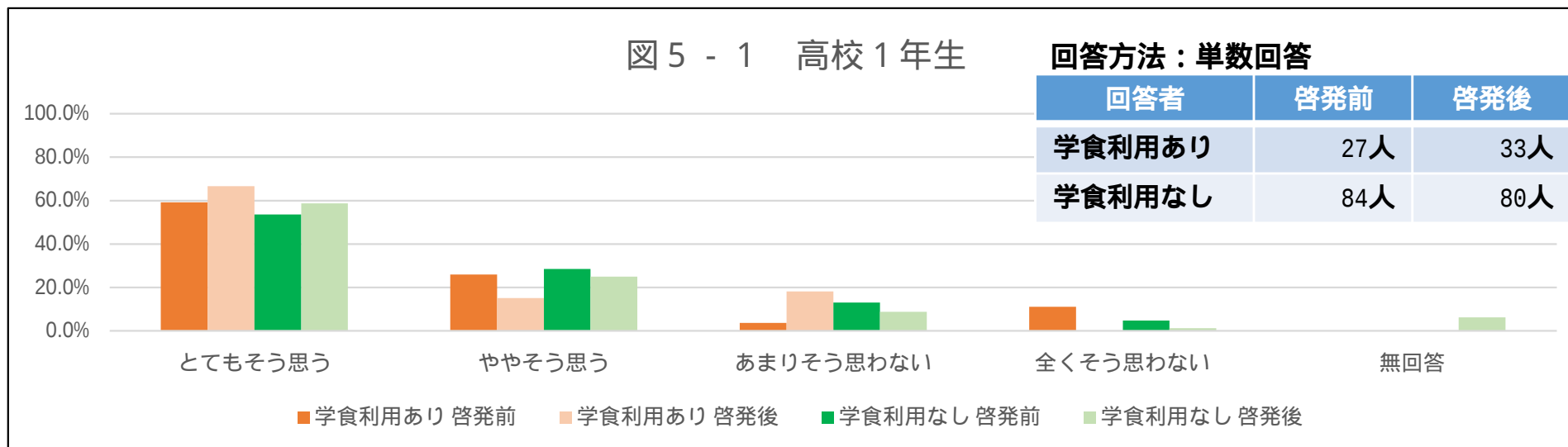


図5 - 3 大学・短大1年生 回答方法：単数回答

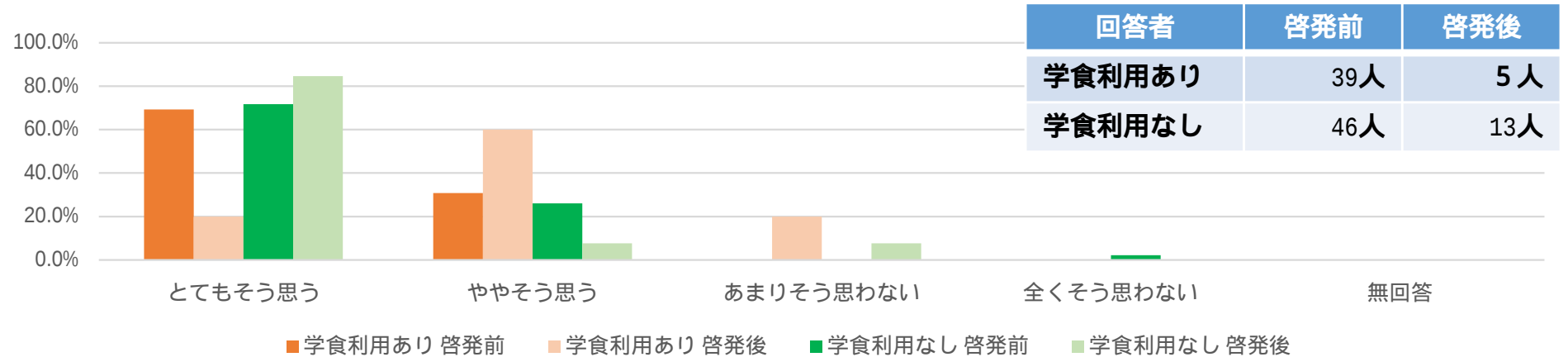


図5 - 4 大学・短大全体 回答方法：単数回答

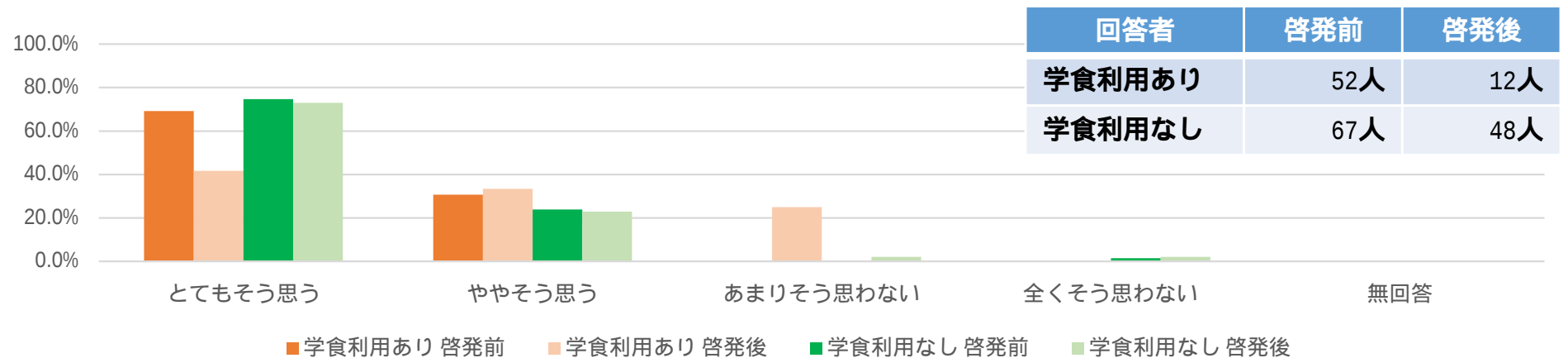
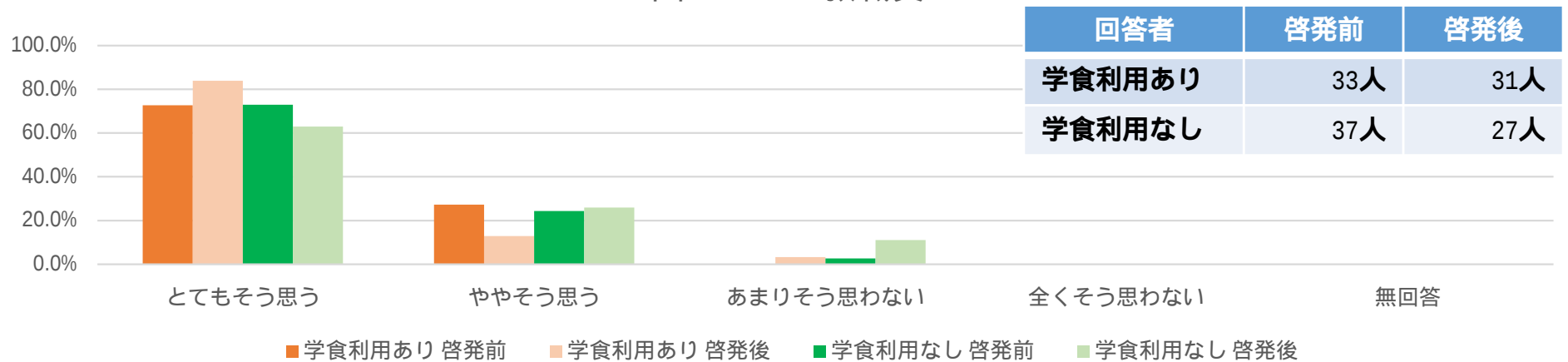


図5 - 5 教職員

回答方法：単数回答



考察

啓発の有無、学生食堂の利用の有無に関わらず、全体的に「とても思う」「やや思う」割合は高い。

4) ごみ（特に生ごみ）を捨てるとき

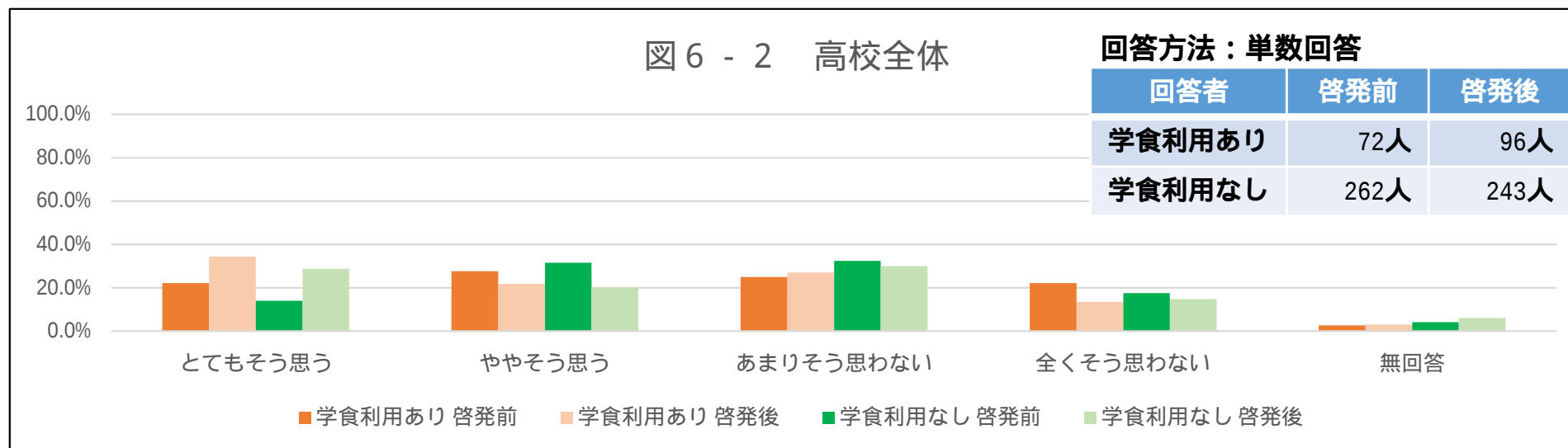
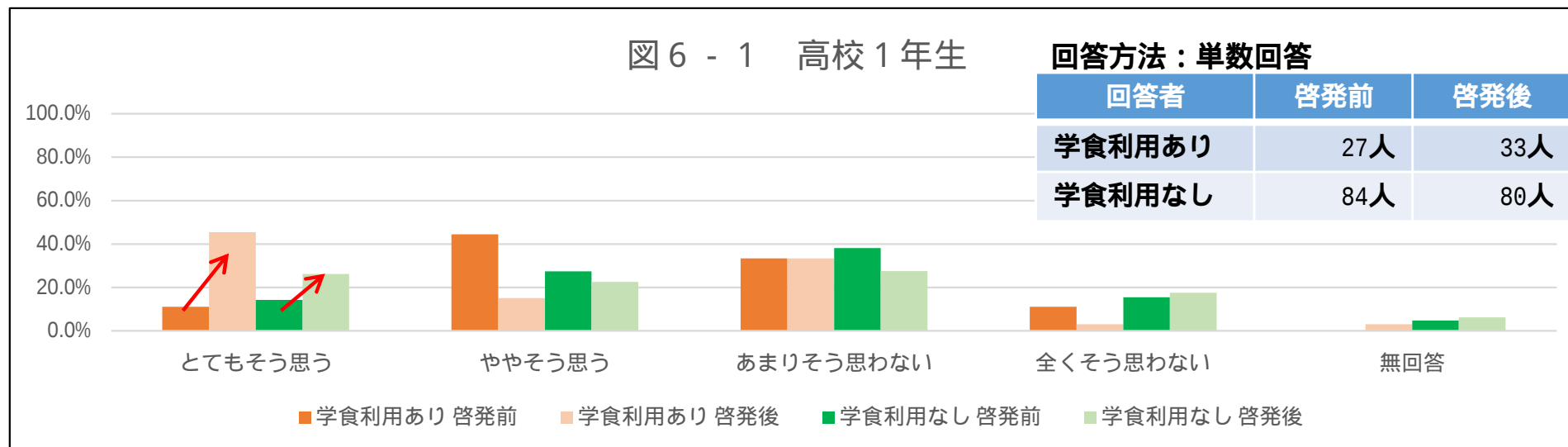


図 6 - 3 大学・短大 1 年生 回答方法：単数回答

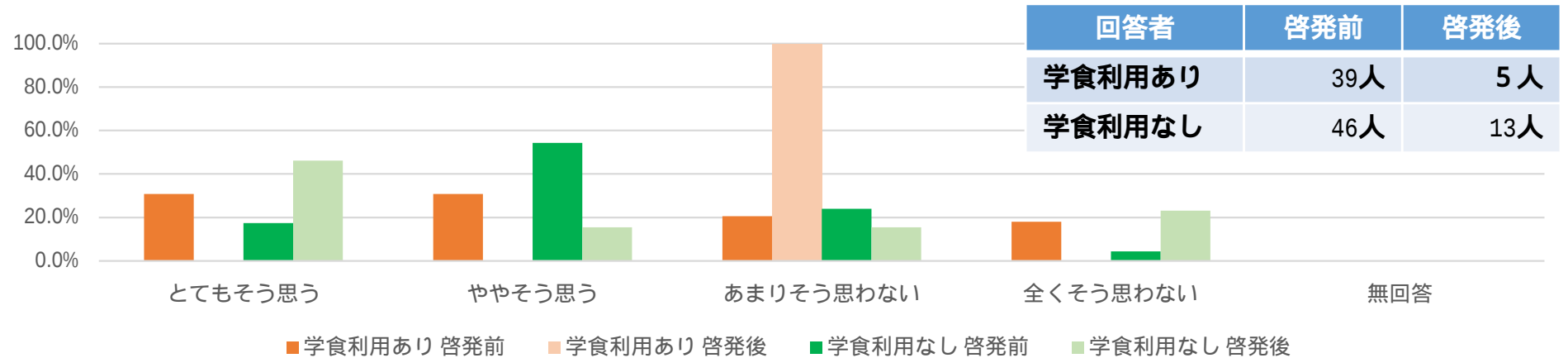


図 6 - 4 大学・短大全体 回答方法：単数回答

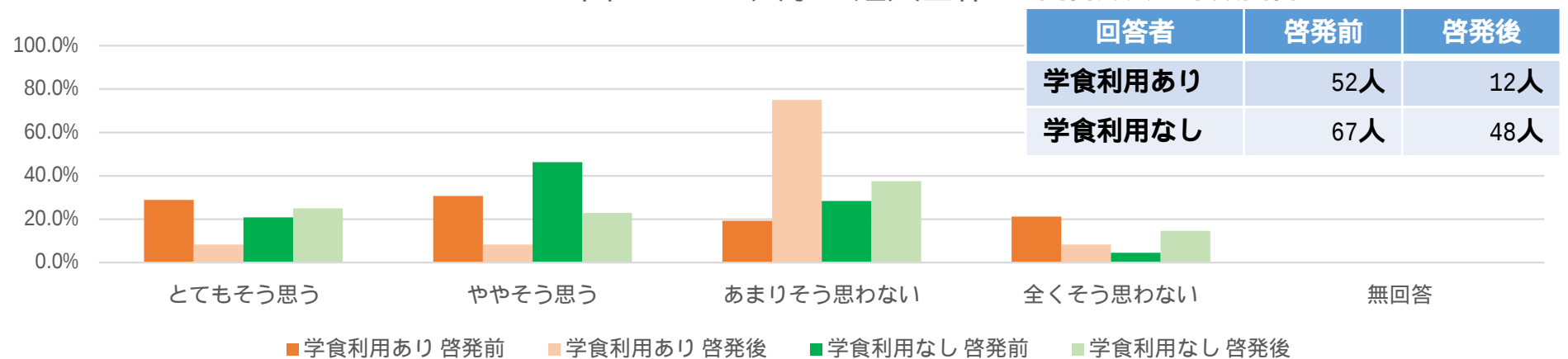
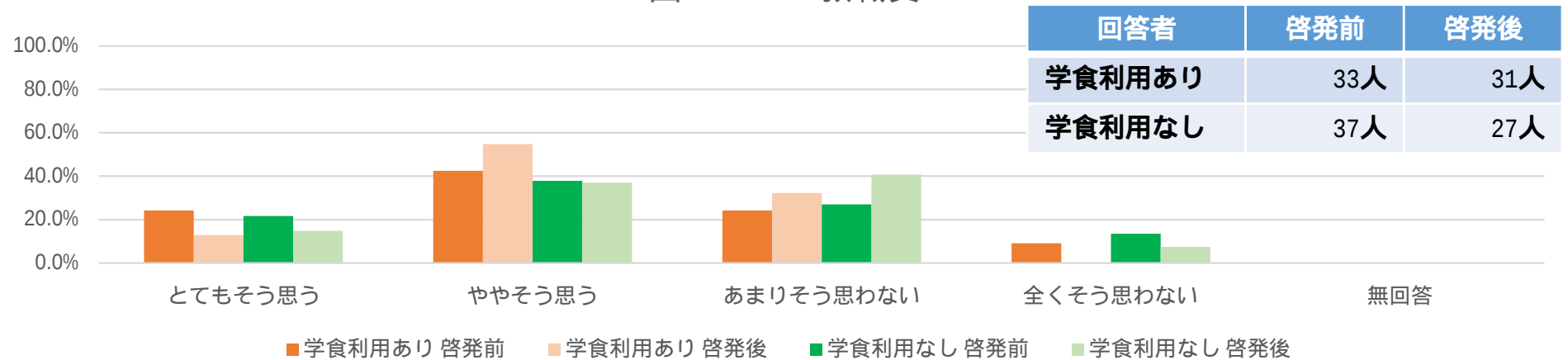


図 6 - 5 教職員

回答方法：単数回答



考察

高校生が啓発後、「とてもそう思う」と回答した割合が大きく増加した。
（１年生の学食利用者は11.1% 45.5%に上昇）

5) 食品ロスに関する問題（恵方巻の廃棄等）のニュース（記事）を見たとき

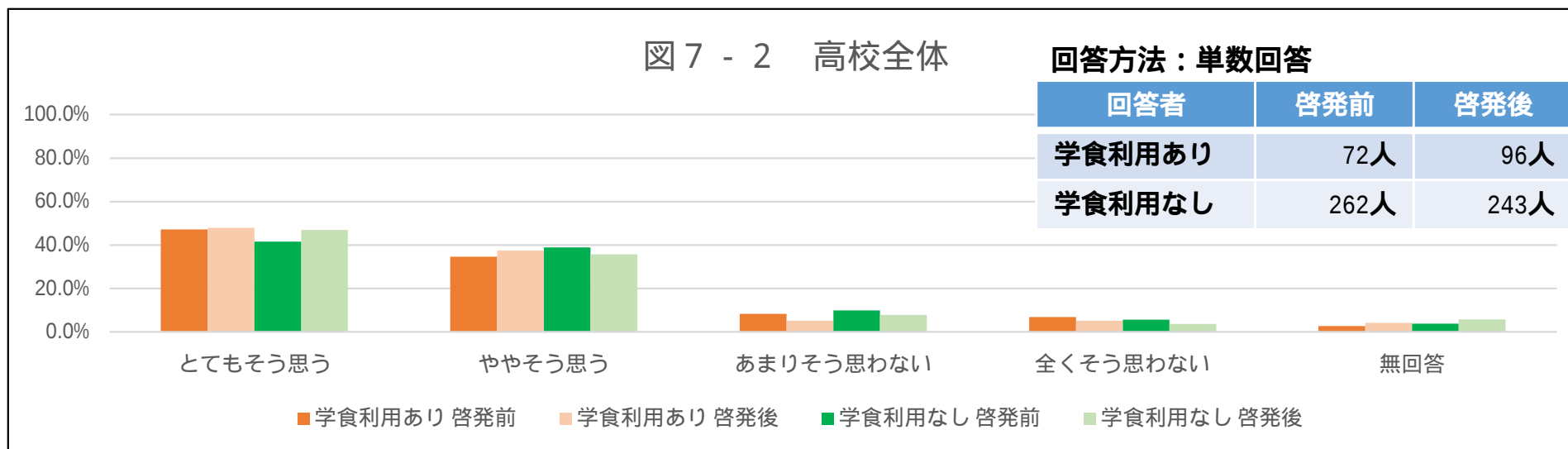
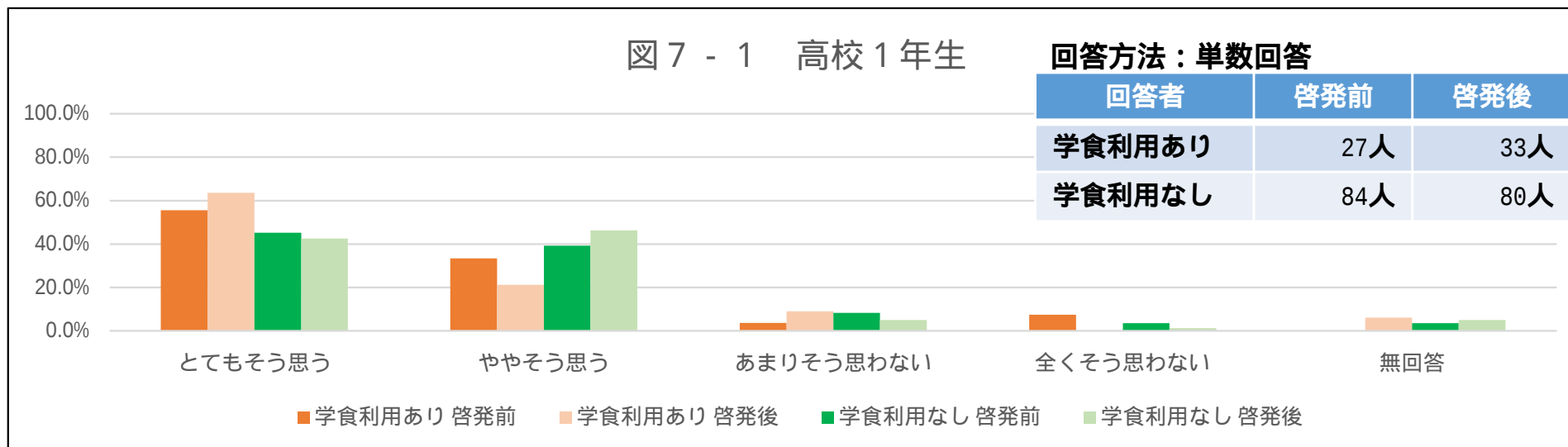


図 7 - 3 大学・短大 1 年生 回答方法：単数回答

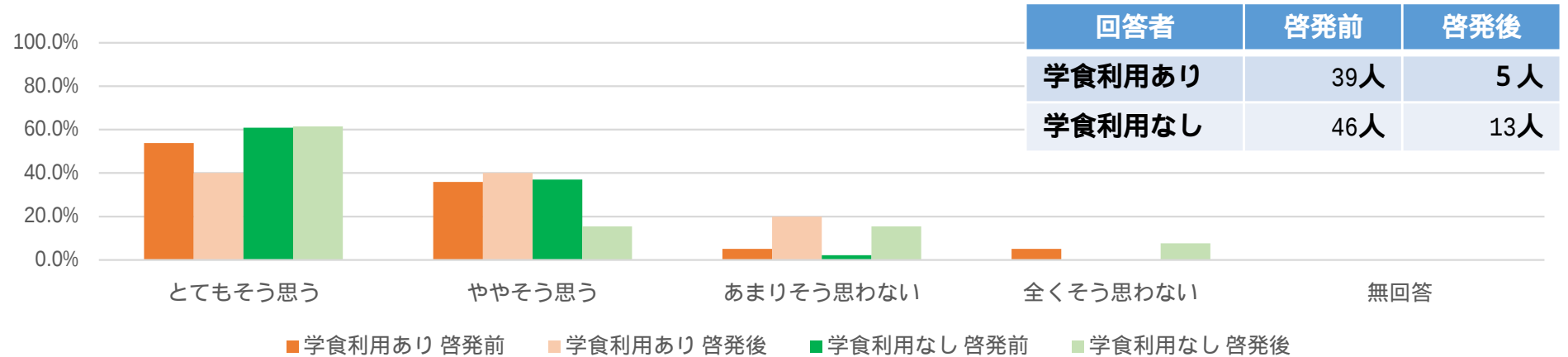


図 7 - 4 大学・短大 1 年生 回答方法：単数回答

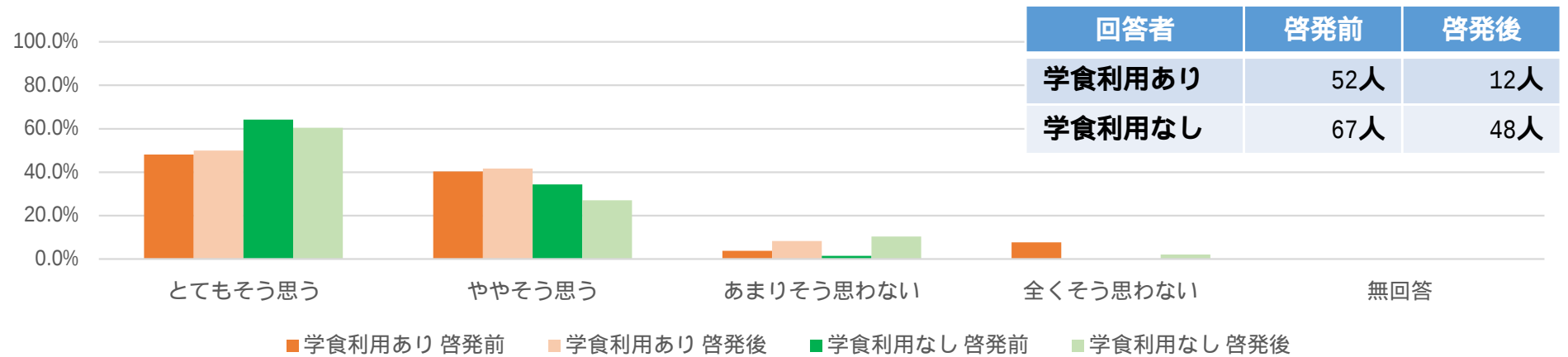
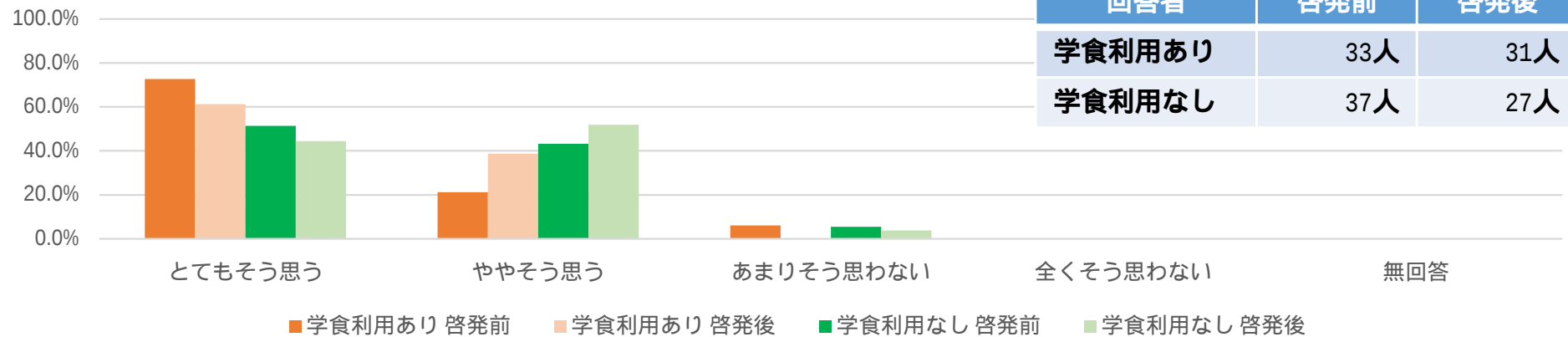


図 7 - 5 教職員

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	33人	31人
学食利用なし	37人	27人



考察

啓発の有無、学生食堂の利用の有無に関わらず、全体的に「とても思う」「やや思う」割合は80%以上と高い。

Q 4.あなたが、「食品ロス」を減らすために行っている状況について教えてください。

1) 日頃から冷蔵庫や食品棚等にある食材と期限を確認し、買い物に行く

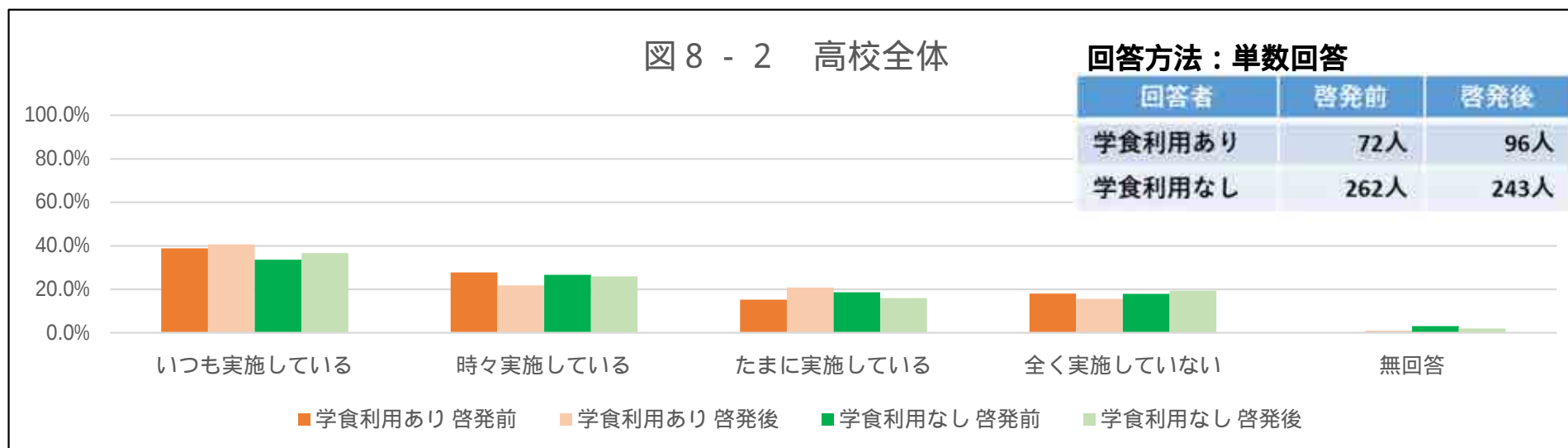
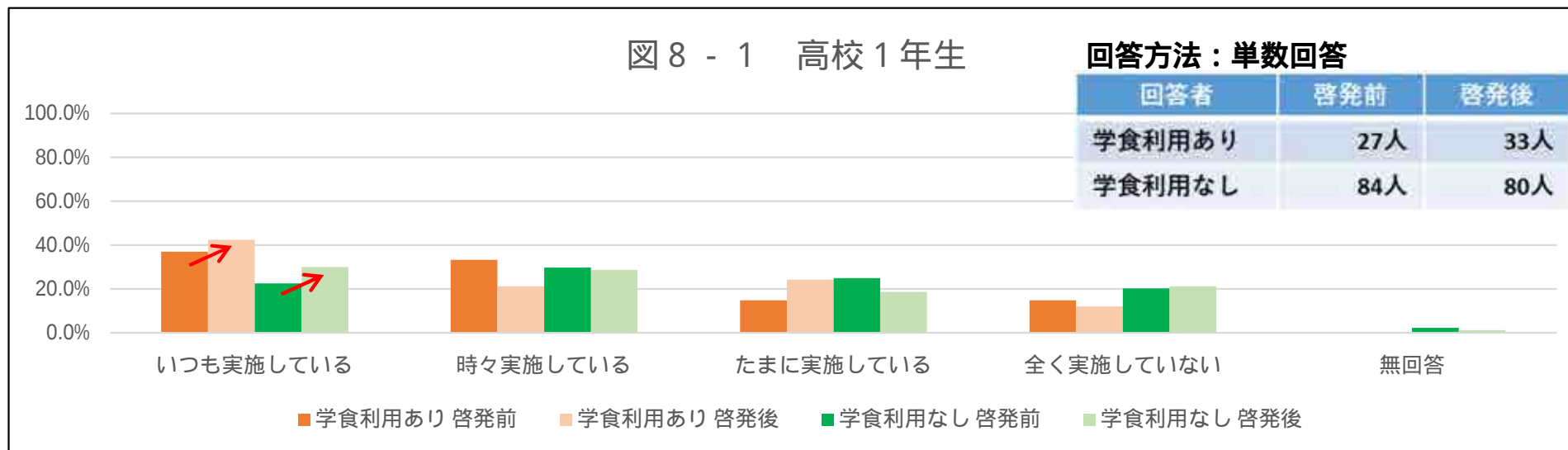


図 8 - 3 大学・短大 1 年生 回答方法：単数回答

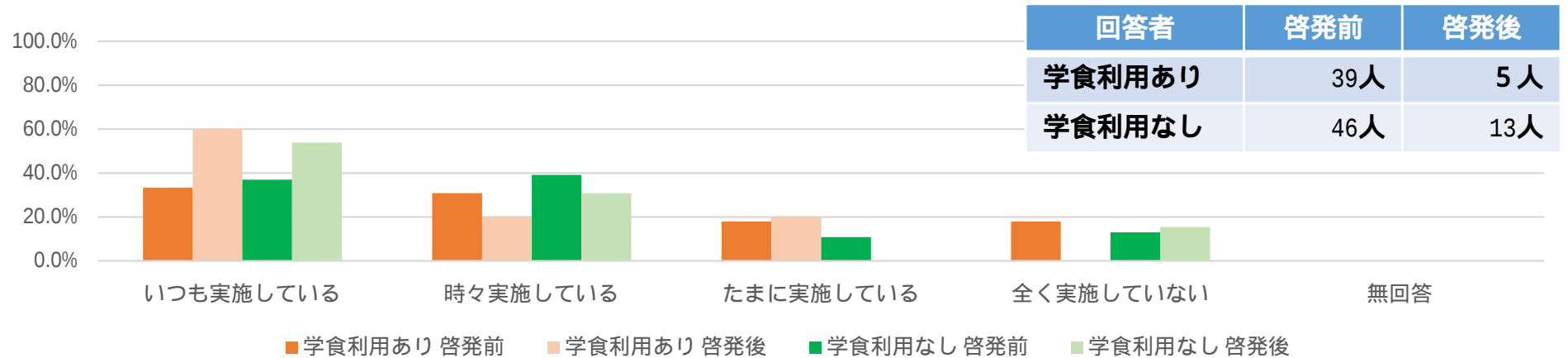


図 8 - 4 大学・短大 1 年生 回答方法：単数回答

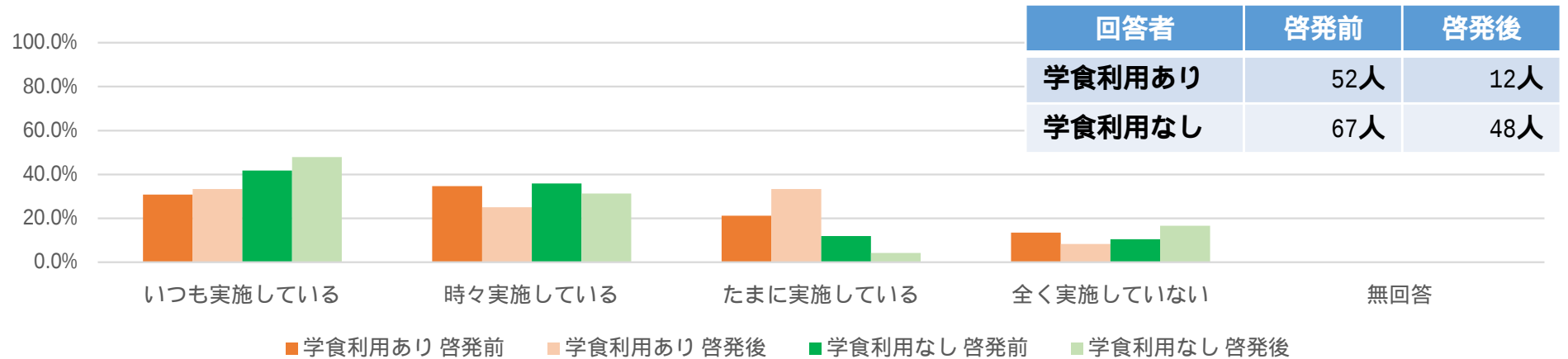
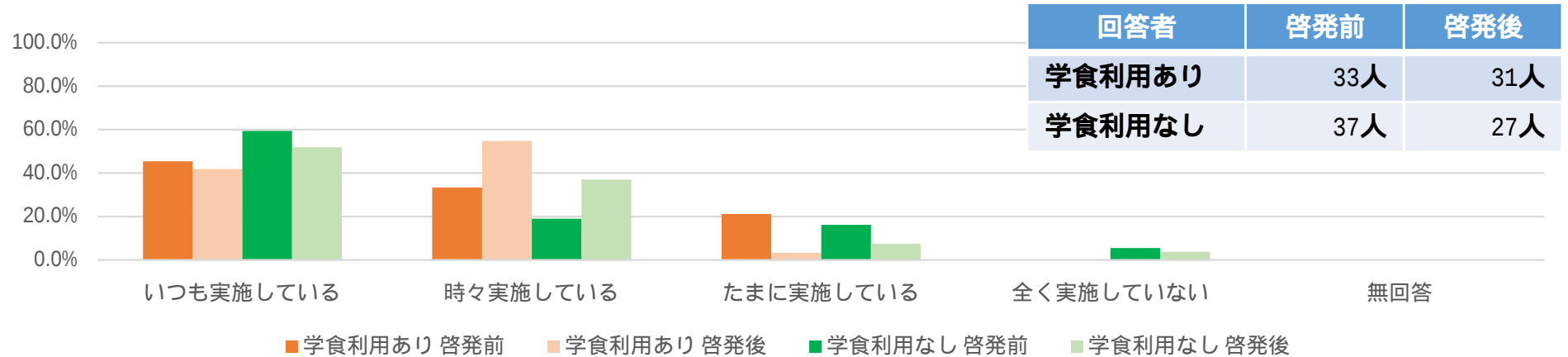


図 8 - 5 教職員

回答方法：単数回答



考察

高校 1 年生の「いつも実施している」割合が、啓発後増加した。

○高校 1 年生

学食利用あり 37.0% 42.4%

学食利用なし 22.6% 30.0%

2) 使う分、食べきれ分だけ買う(小分け商品、少量パック商品、バラ売り等)

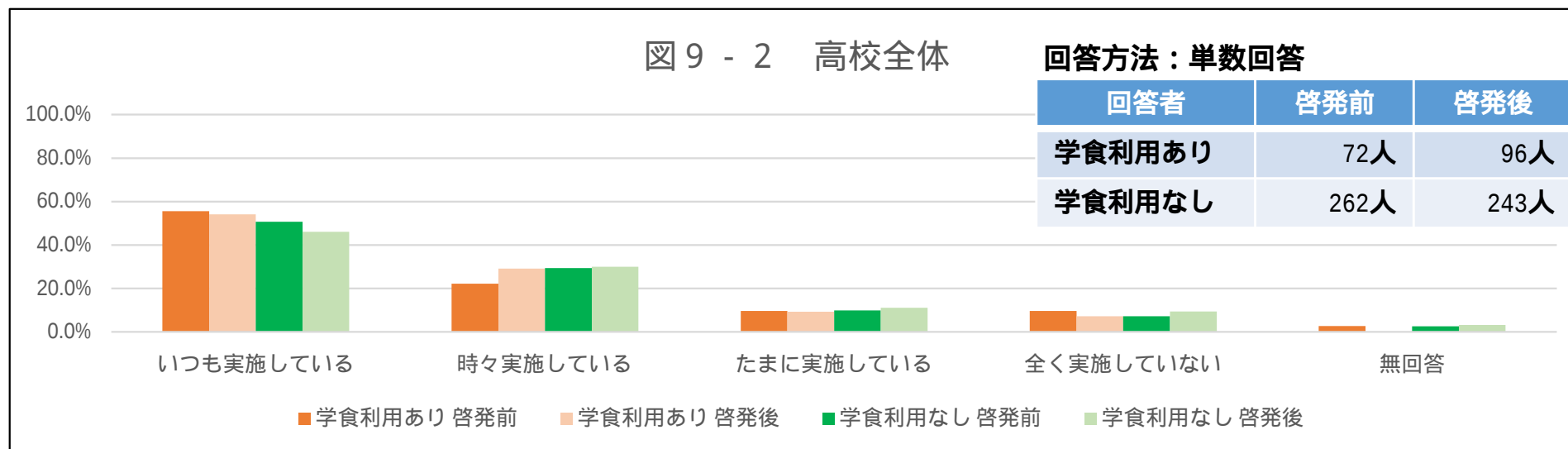
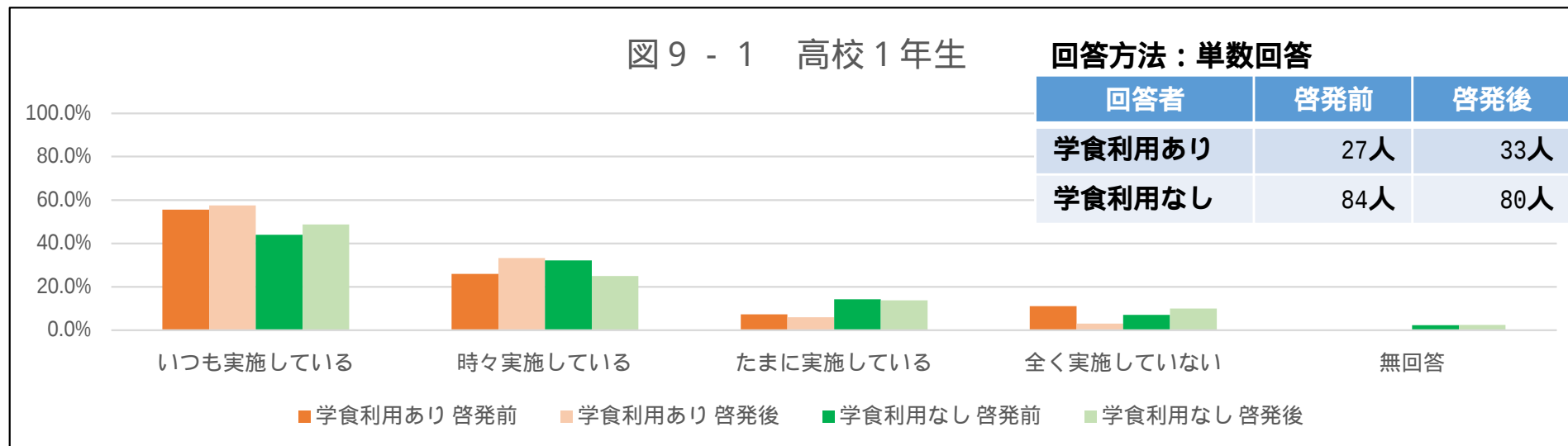


図 9 - 3 大学・短大 1 年生 回答方法：単数回答

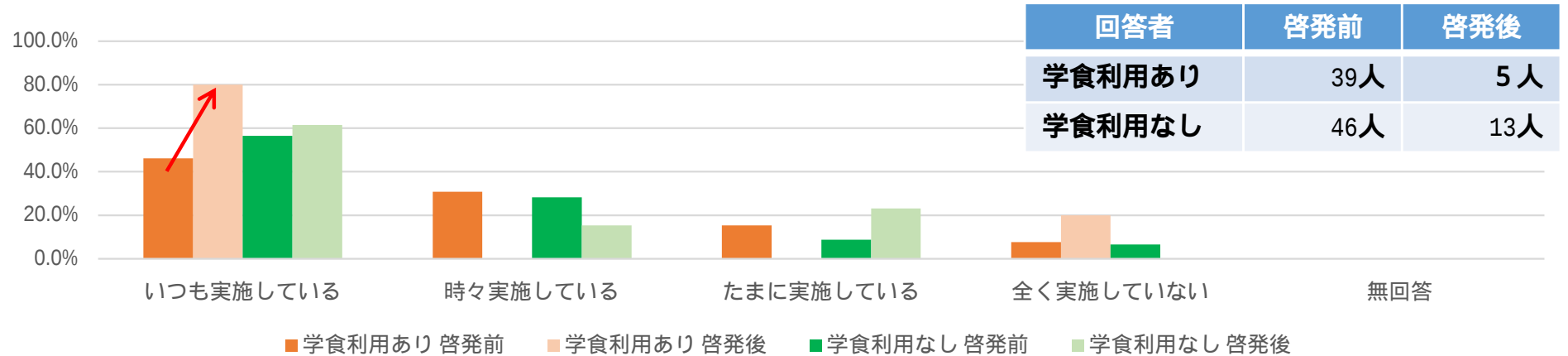


図 9 - 4 大学・短大全体 回答方法：単数回答

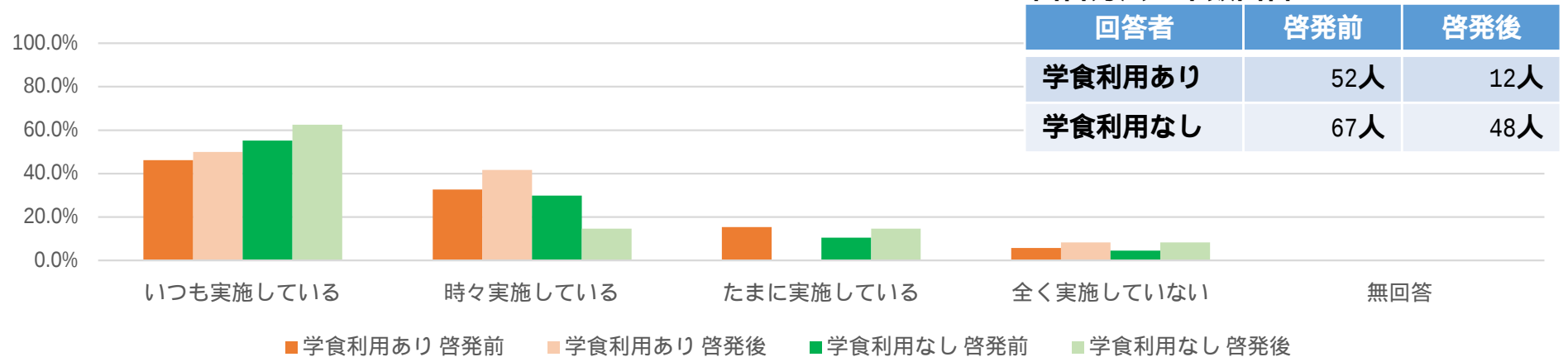
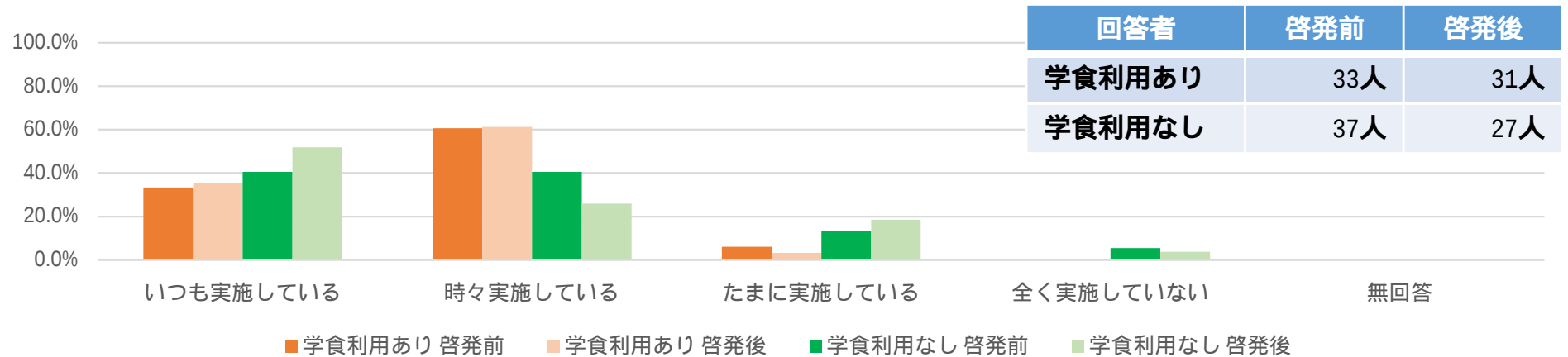


図 9 - 5 教職員

回答方法：単数回答



考察

全体的に「いつも実施している」「時々実施している」割合が高い。
高校1年生が啓発後、「いつも実施している」割合が若干増加した。

3) 食べきれの分の食材だけ調理する

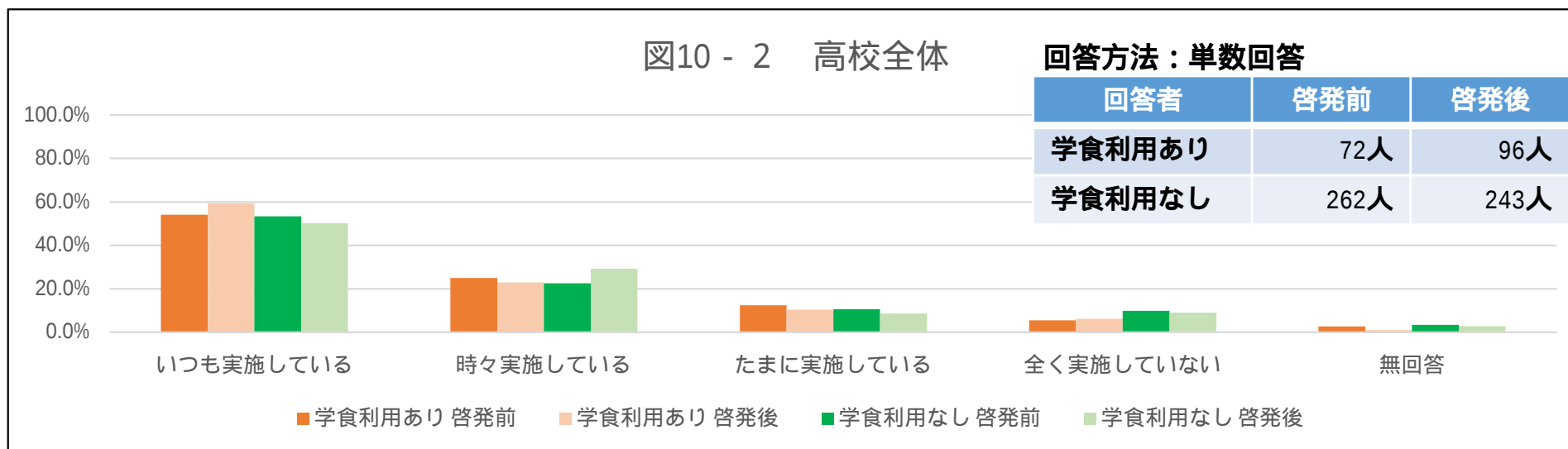
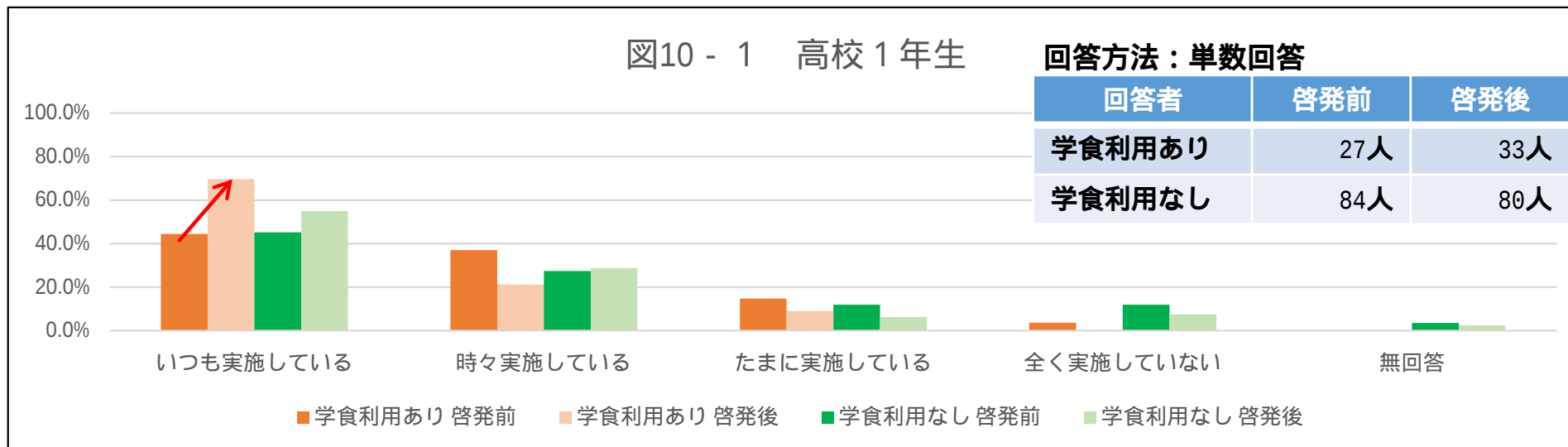


図10 - 3 大学・短大1年生

回答方法：単数回答

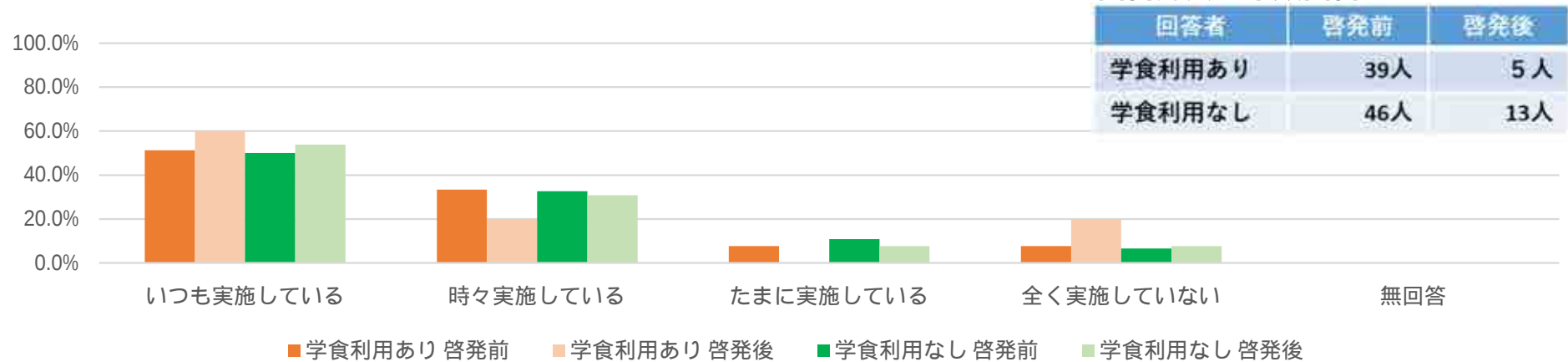


図10 - 4 大学・短大全体

回答方法：単数回答

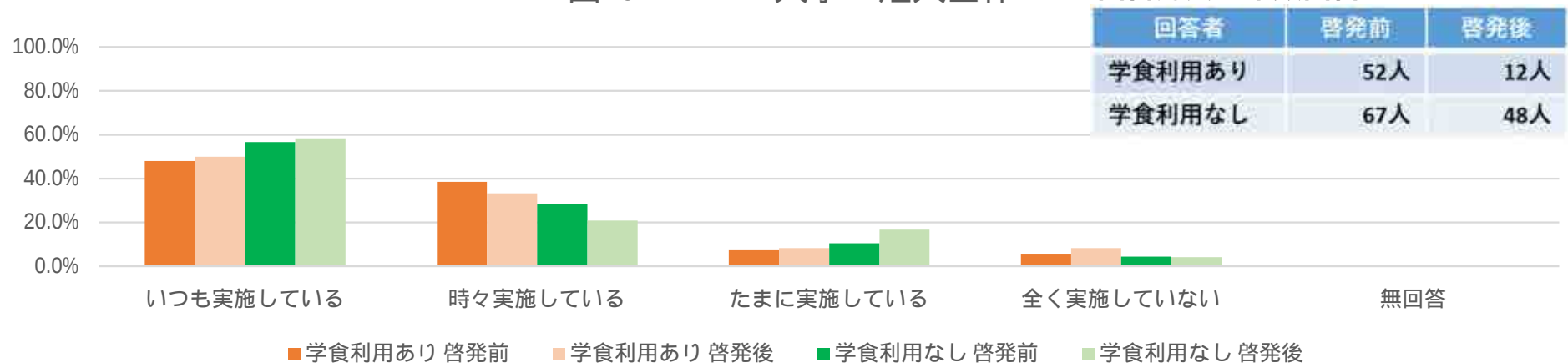
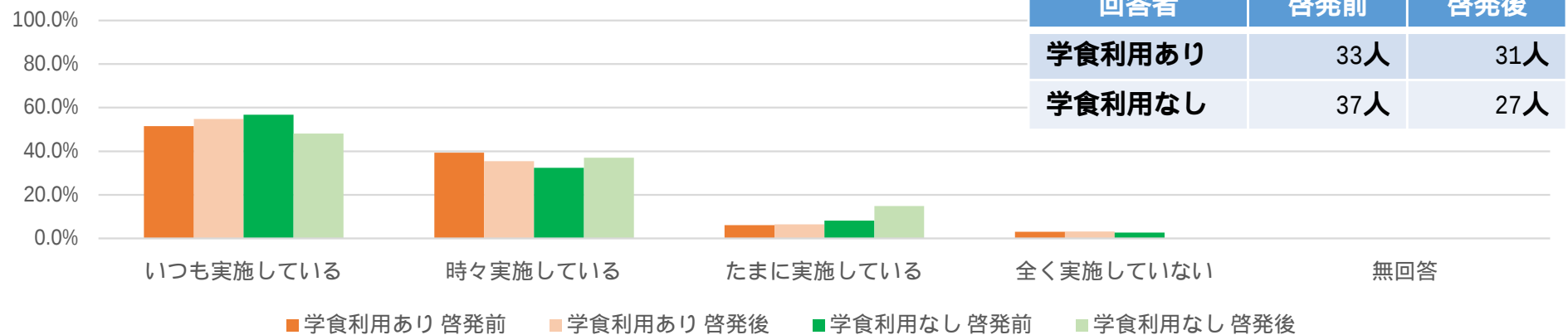


図10 - 5 教職員

回答方法：単数回答



考察

特に高校1年生の学食利用者の「いつも実施している」割合が啓発前の44.4%から、啓発後に69.7%と大きく増加した。

4) 食堂利用時や外食時は、食べられる量だけ食事を注文する(小盛の活用等)

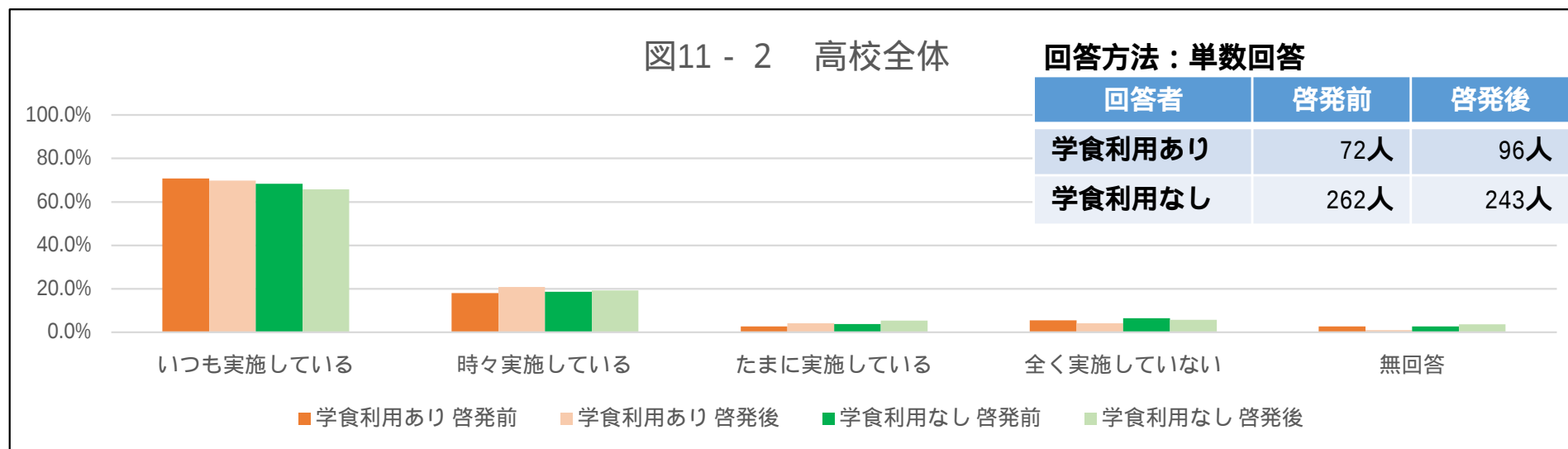
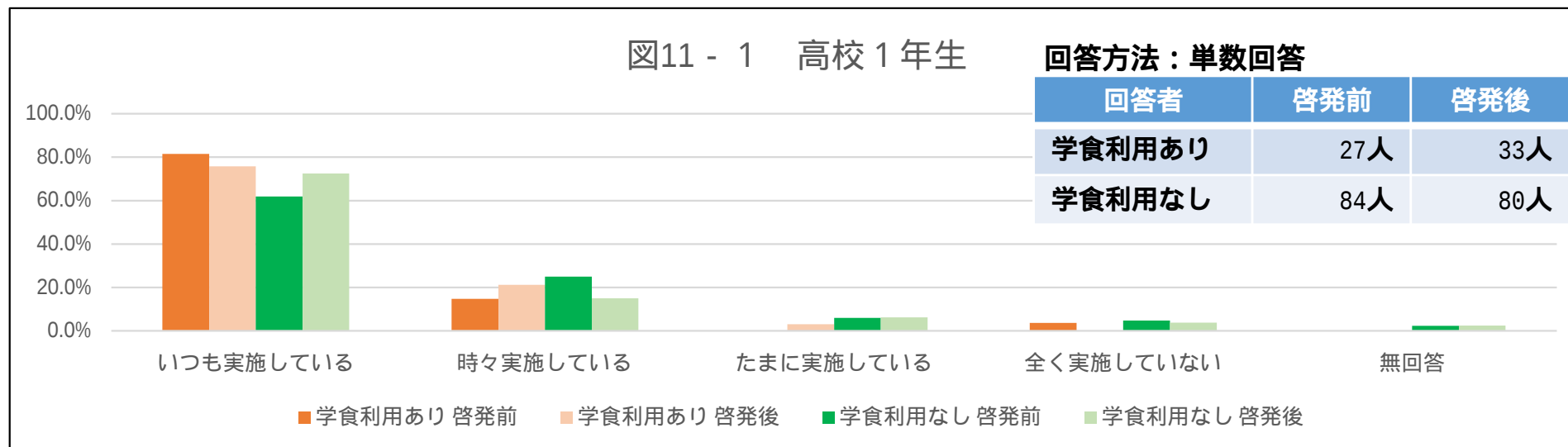


図11 - 3 大学・短大1年生

回答方法：単数回答

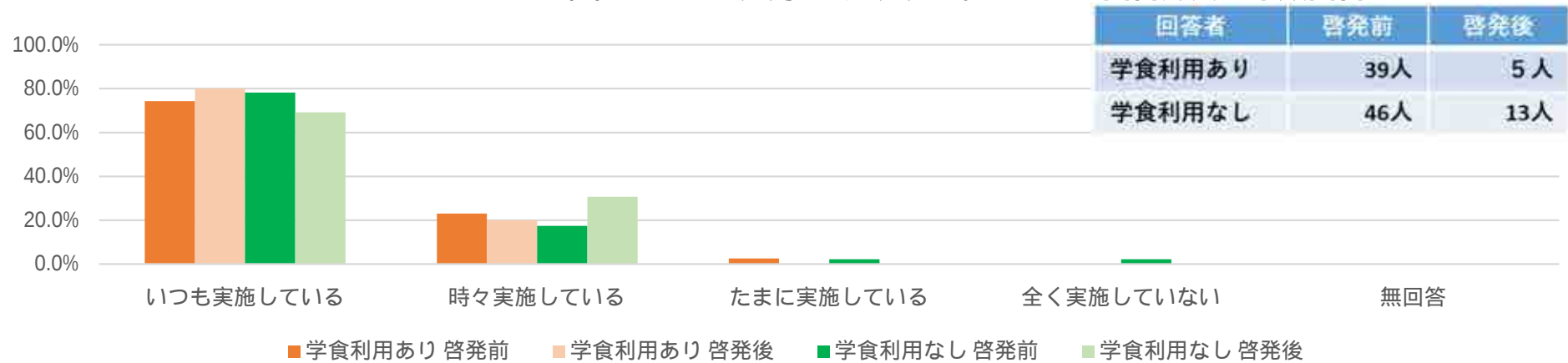


図11 - 4 大学・短大1年生

回答方法：単数回答

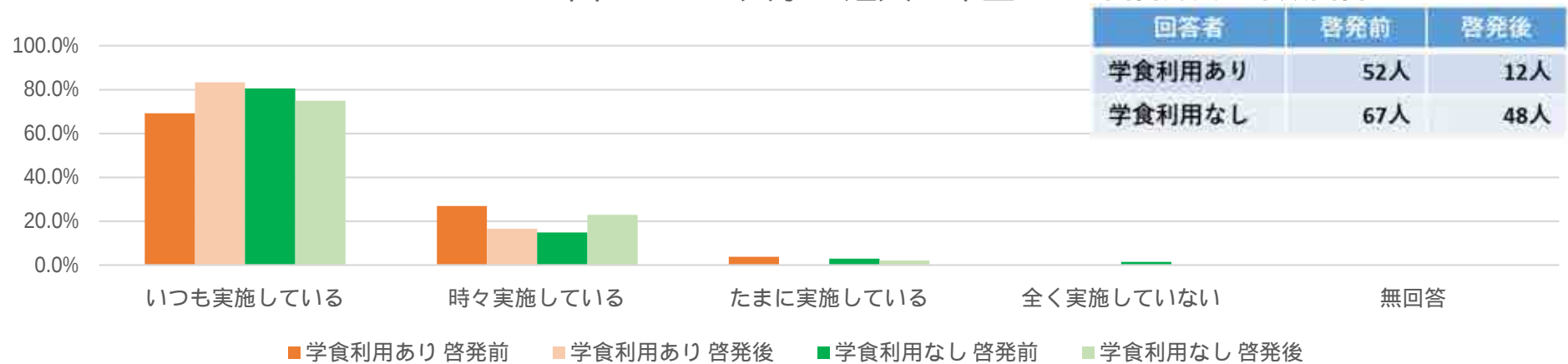
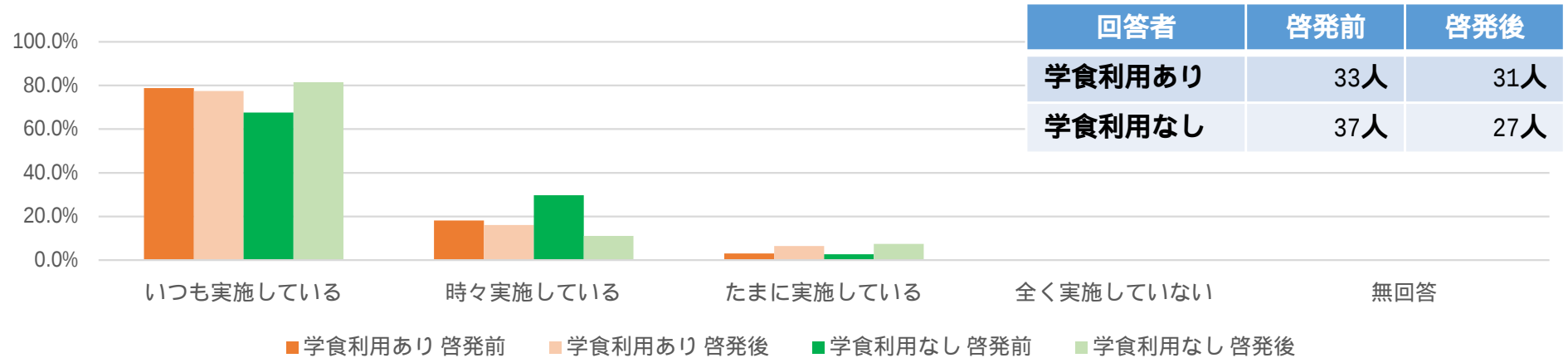


図11 - 5 教職員

回答方法：単数回答



考察

啓発の有無、学生食堂の利用の有無に関わらず、全体的に「いつも実施している」割合が高い。

5) フードドライブ活動への協力

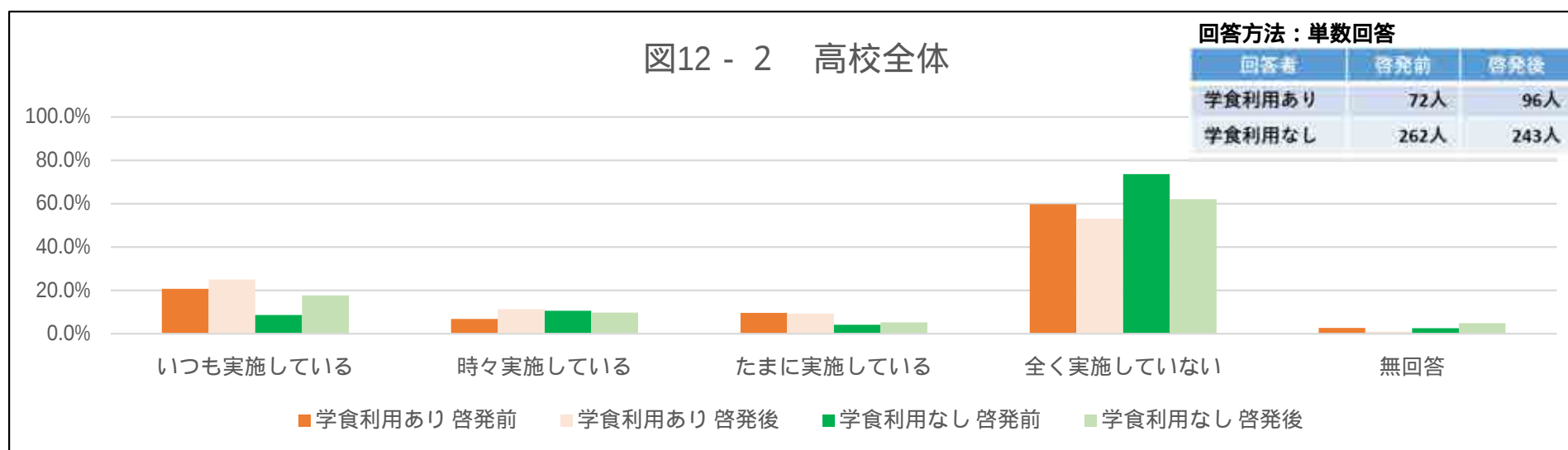
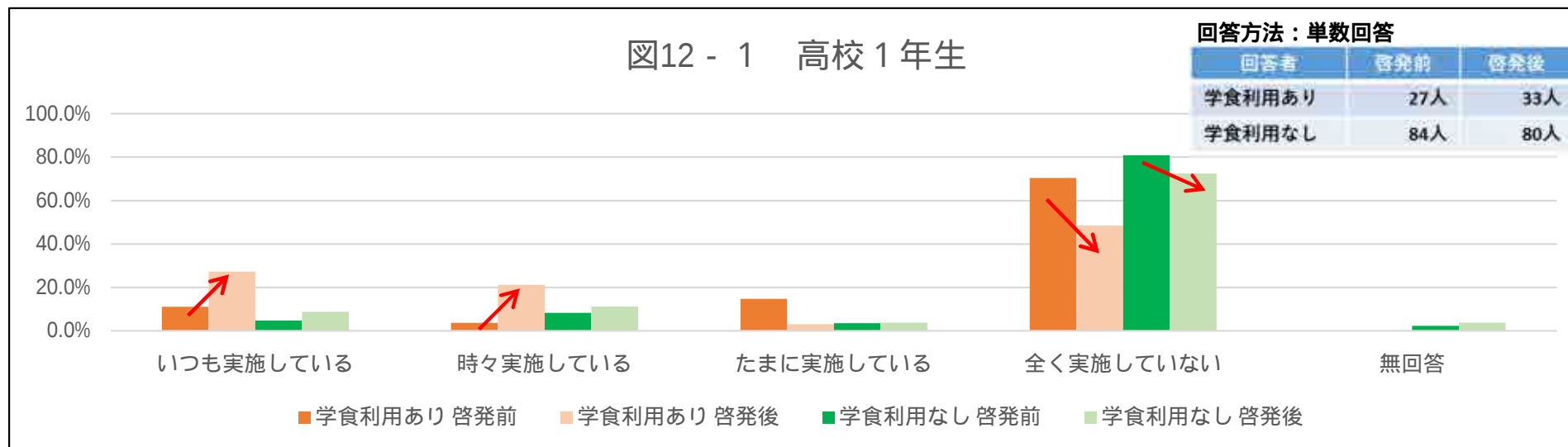


図12 - 3 大学・短大 1 年生

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	39人	5人
学食利用なし	46人	13人

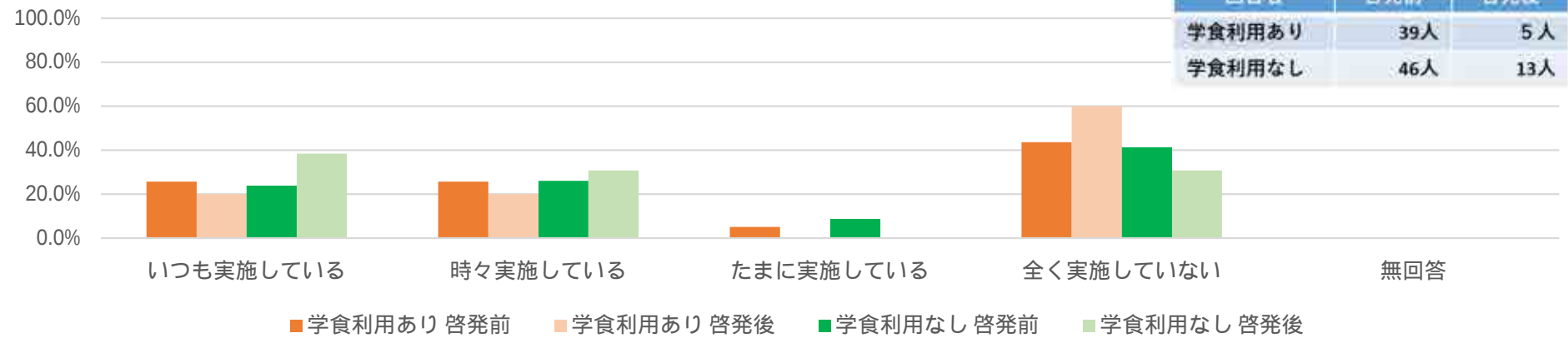


図12 - 4 大学・短大全体

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	52人	12人
学食利用なし	67人	48人

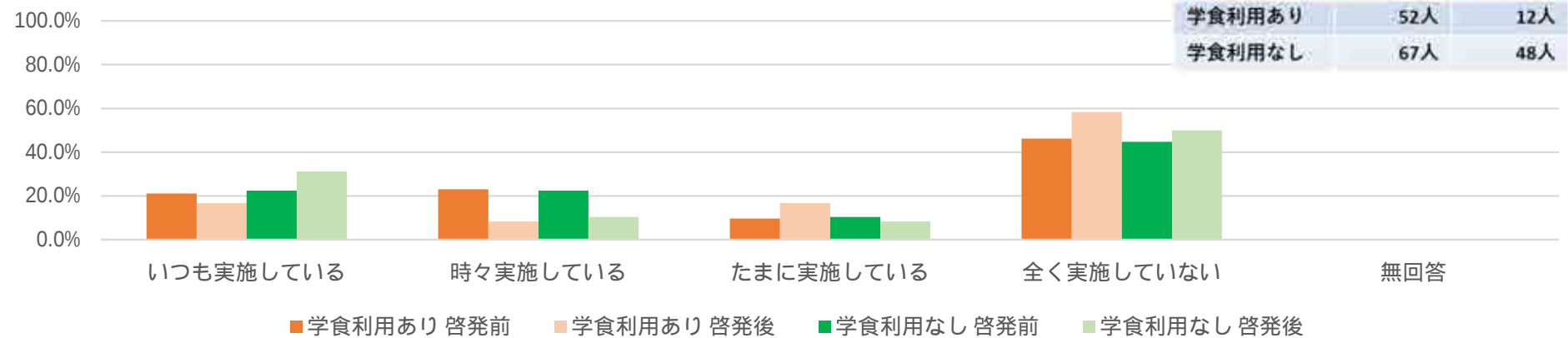
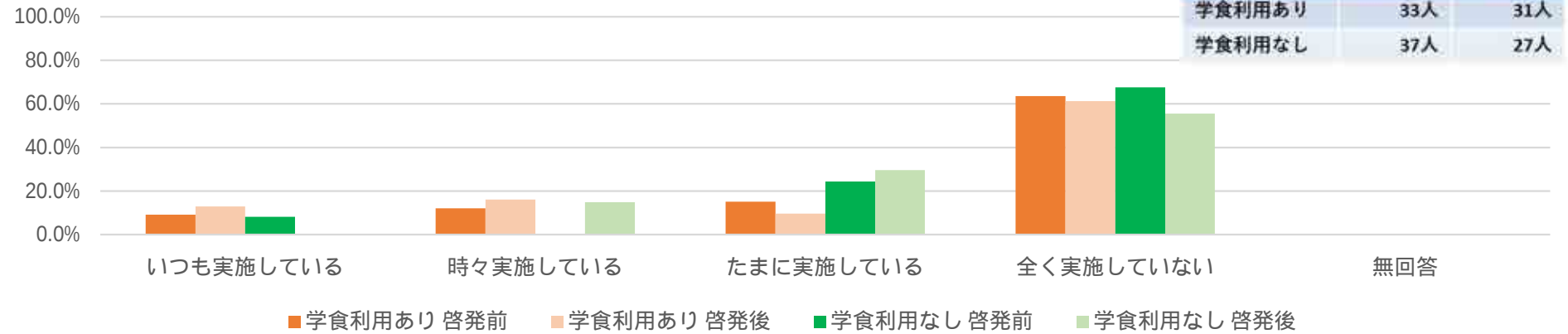


図12 - 5 教職員

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	33人	31人
学食利用なし	37人	27人



考察

全体的に「全く実施していない」割合は半数以上と依然として高いが、高校1年生学食利用者の「いつも実施している」「時々実施している」の割合が啓発前は14.8%であったが、啓発後は48.5%に増加した。

Q5 . あなたが食品ロスを生み出していると思う頻度を教えてください

図13 - 1 高校1年生

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	27人	33人
学食利用なし	84人	80人

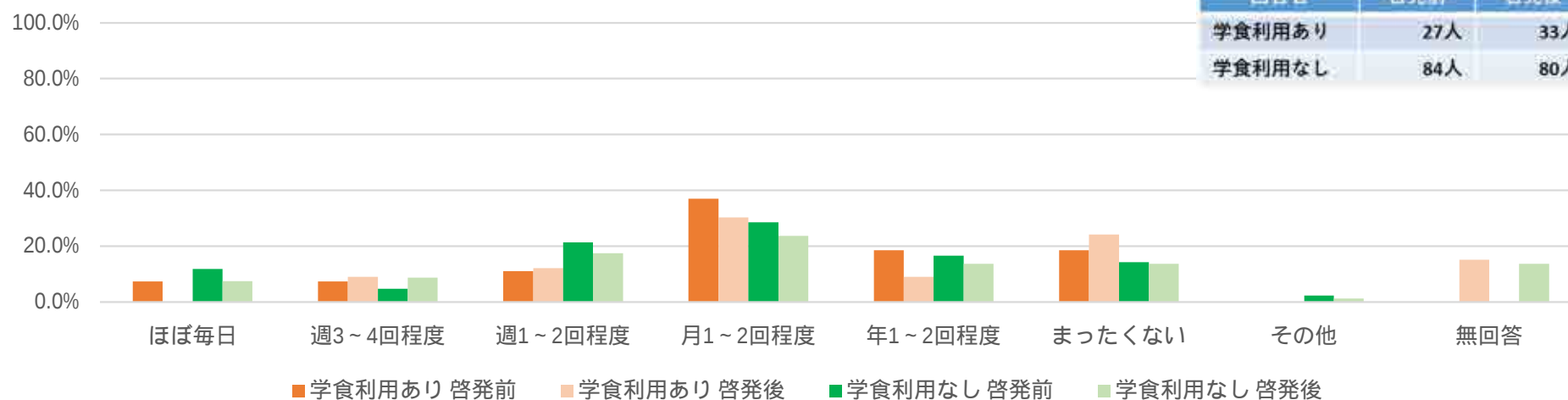


図13 - 2 高校全体

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	72人	96人
学食利用なし	262人	243人

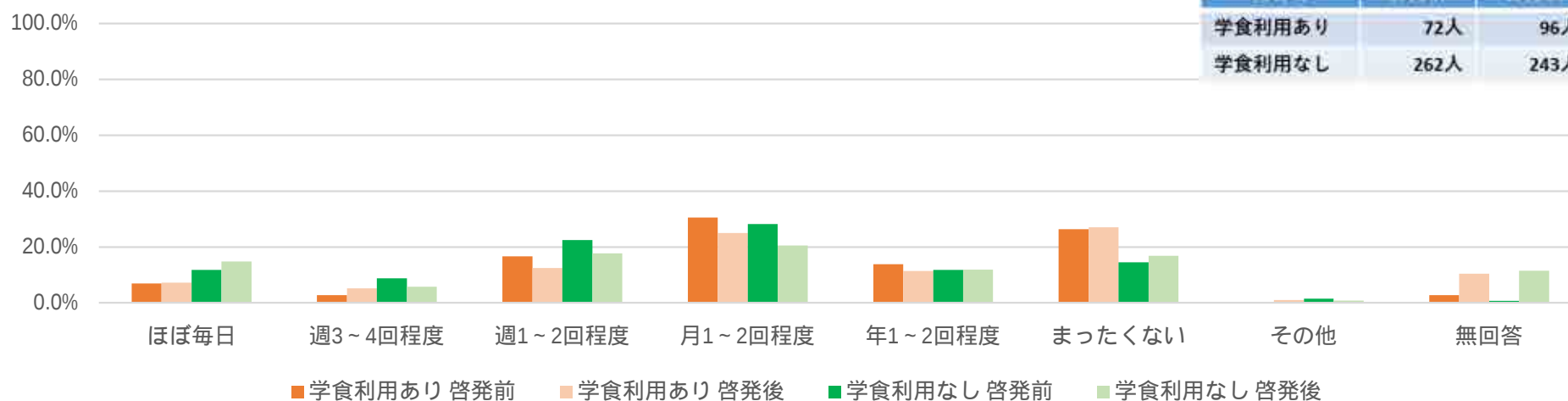


図13 - 3 大学・短大1年生

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	39人	5人
学食利用なし	46人	13人

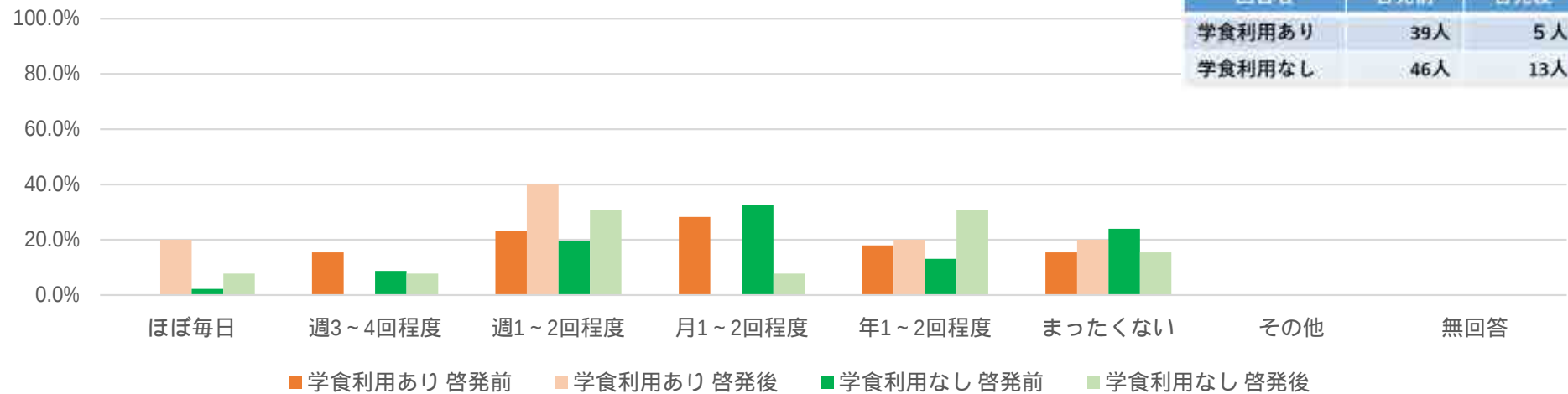


図13 - 4 大学・短大全体

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	52人	12人
学食利用なし	67人	48人

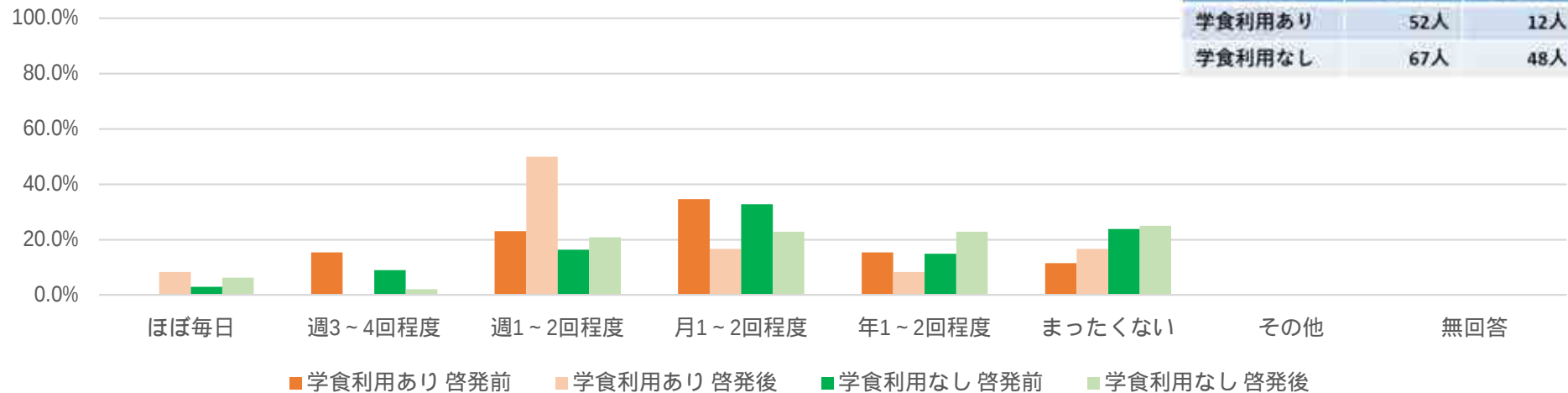
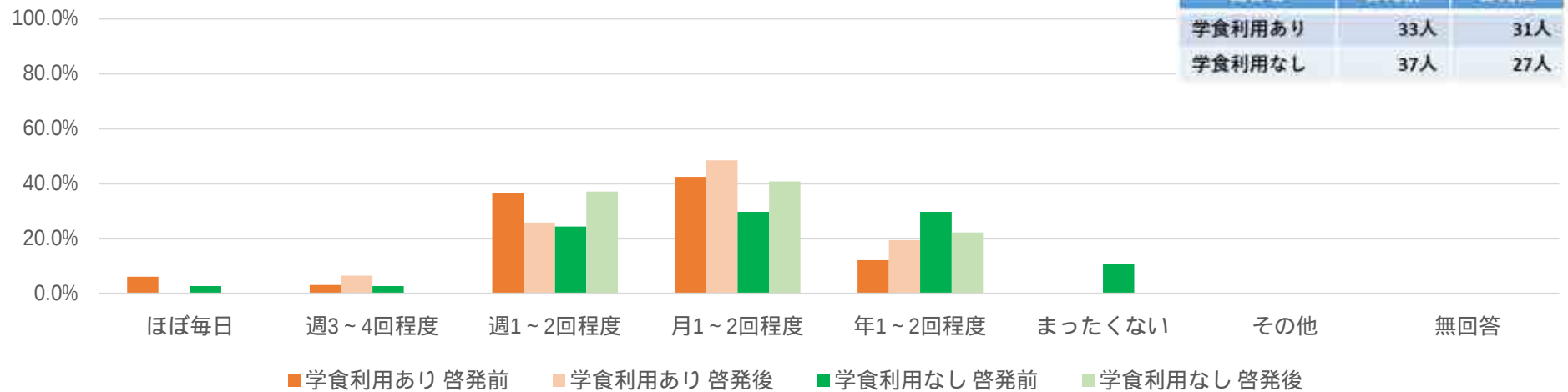


図13 - 5 教職員

回答方法：単数回答

回答者	啓発前	啓発後
学食利用あり	33人	31人
学食利用なし	37人	27人



考察

全体的には啓発の有無・学食利用の有無に関わらず、月1~2回程度が多い。その中で高校1年生の学食利用者の「まったくない」が5.7%増加した。

Q6 . 2023年7月～11月に、学校内であなたが1回以上実施したことをお選びください 複数回答可

図14 - 1 高校1年生

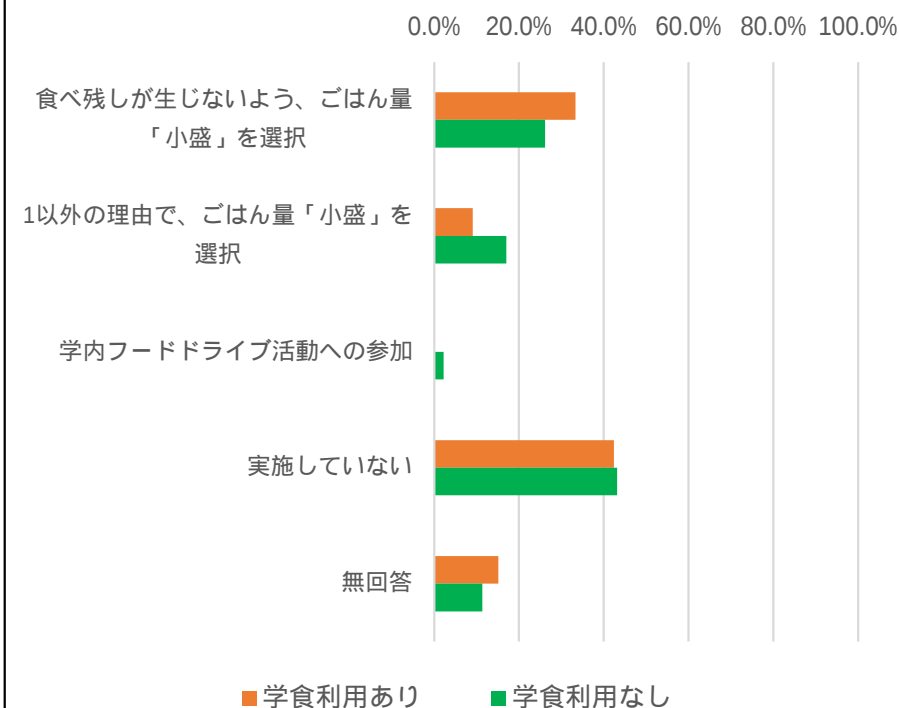
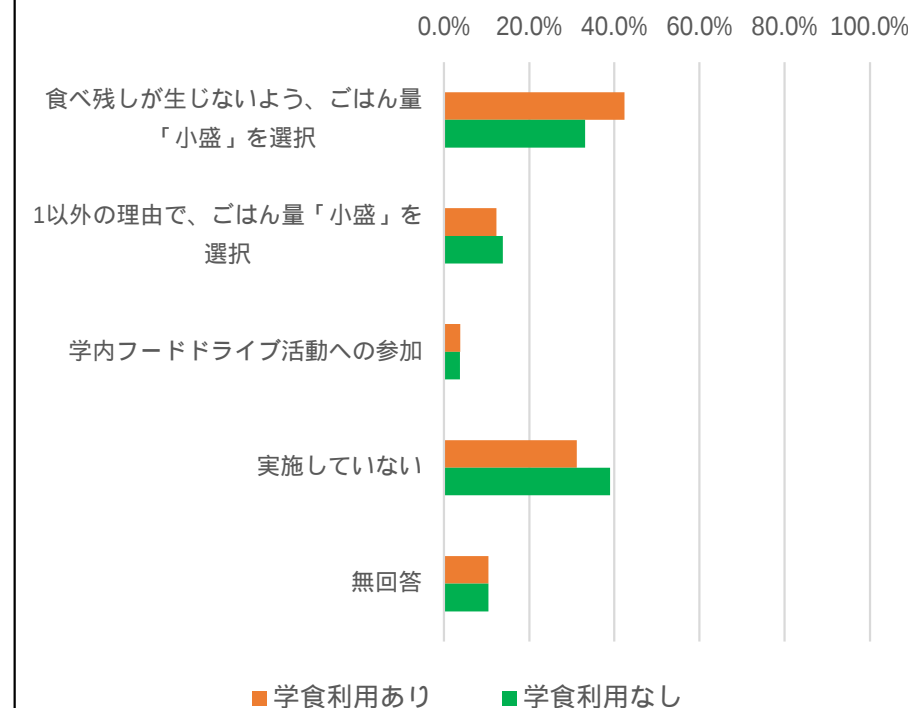


図14 - 2 高校全体



回答方法：複数回答

高校1年生

回答者	人数
学食利用あり	33人
学食利用なし	80人

高校全体

回答者	人数
学食利用あり	96人
学食利用なし	243人

学食を利用していない学生・生徒、教職員の小盛を選択したとの回答は、基本的には学食を利用していないが、1回でも利用したことによるものである。

図14 - 3 大学・短大1年生

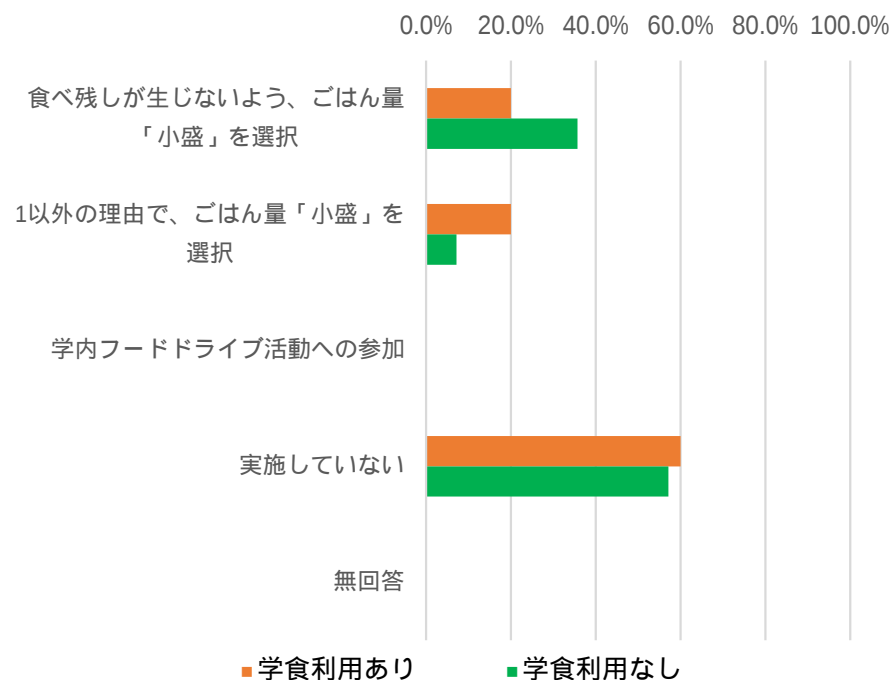
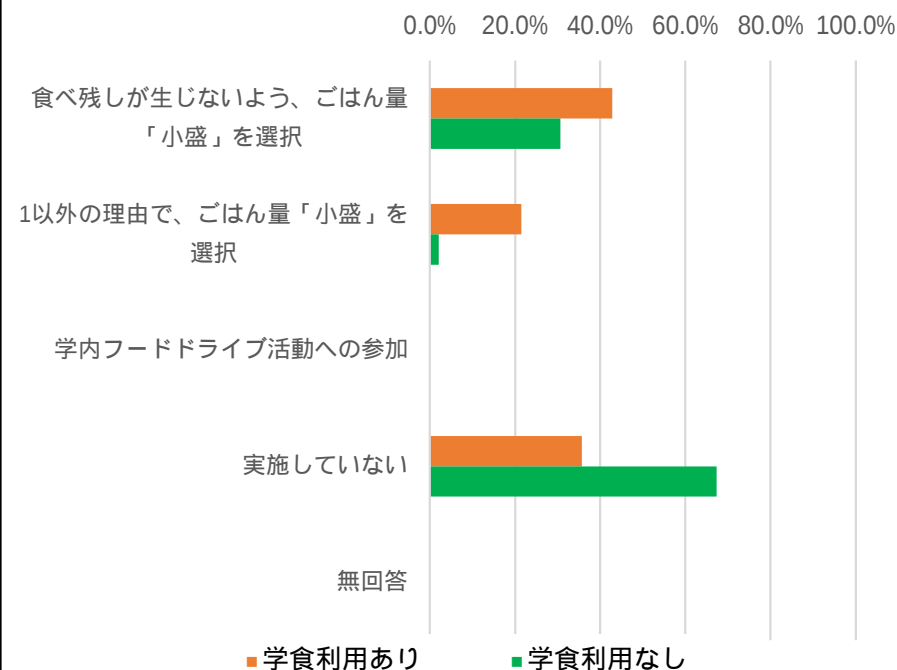


図14 - 4 大学・短大全体



回答方法：複数回答

大学・短大1年生

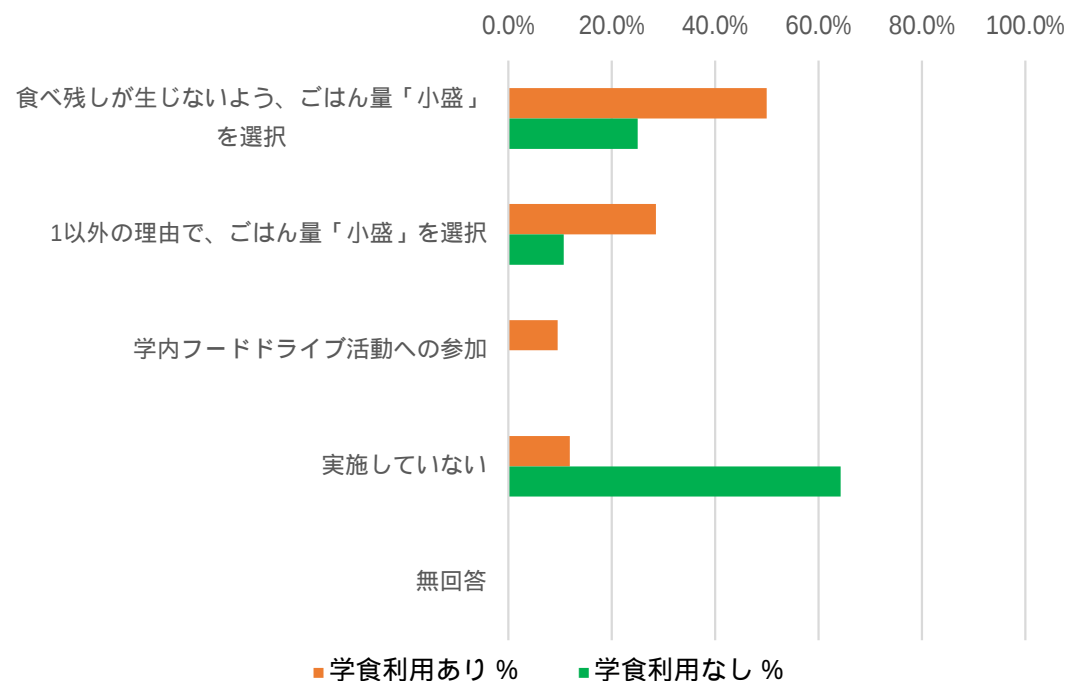
回答者	人数
学食利用あり	5人
学食利用なし	13人

大学・短大全体

回答者	人数
学食利用あり	12人
学食利用なし	48人

学食を利用していない学生・生徒、教職員の小盛を選択したとの回答は、基本的には学食を利用していないが、1回でも利用したことによるものである。

図14 - 5 教職員



回答方法：複数回答

教職員

回答者	人数
学食利用あり	31人
学食利用なし	27人

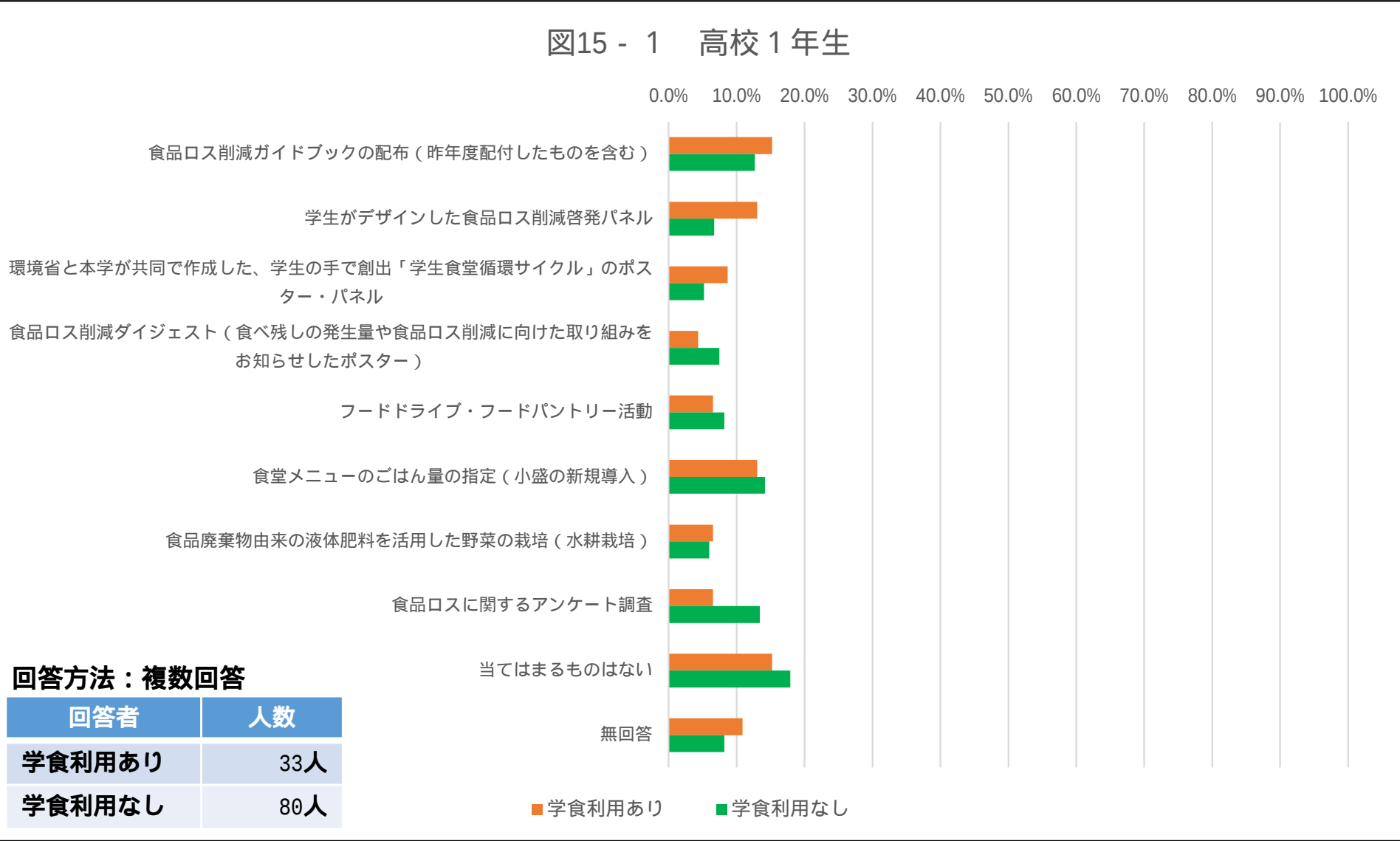
学食を利用していない学生・生徒、教職員の小盛を選択したとの回答は、基本的には学食を利用していないが、1回でも利用したことによるものである。

考察

学食利用者については食べ残しを生じさせないことを意識し、「小盛」を選択する者が42.5%～50.0%おり、「小盛」の選択による食べ残さない行動は根付きつつあると考えられる。

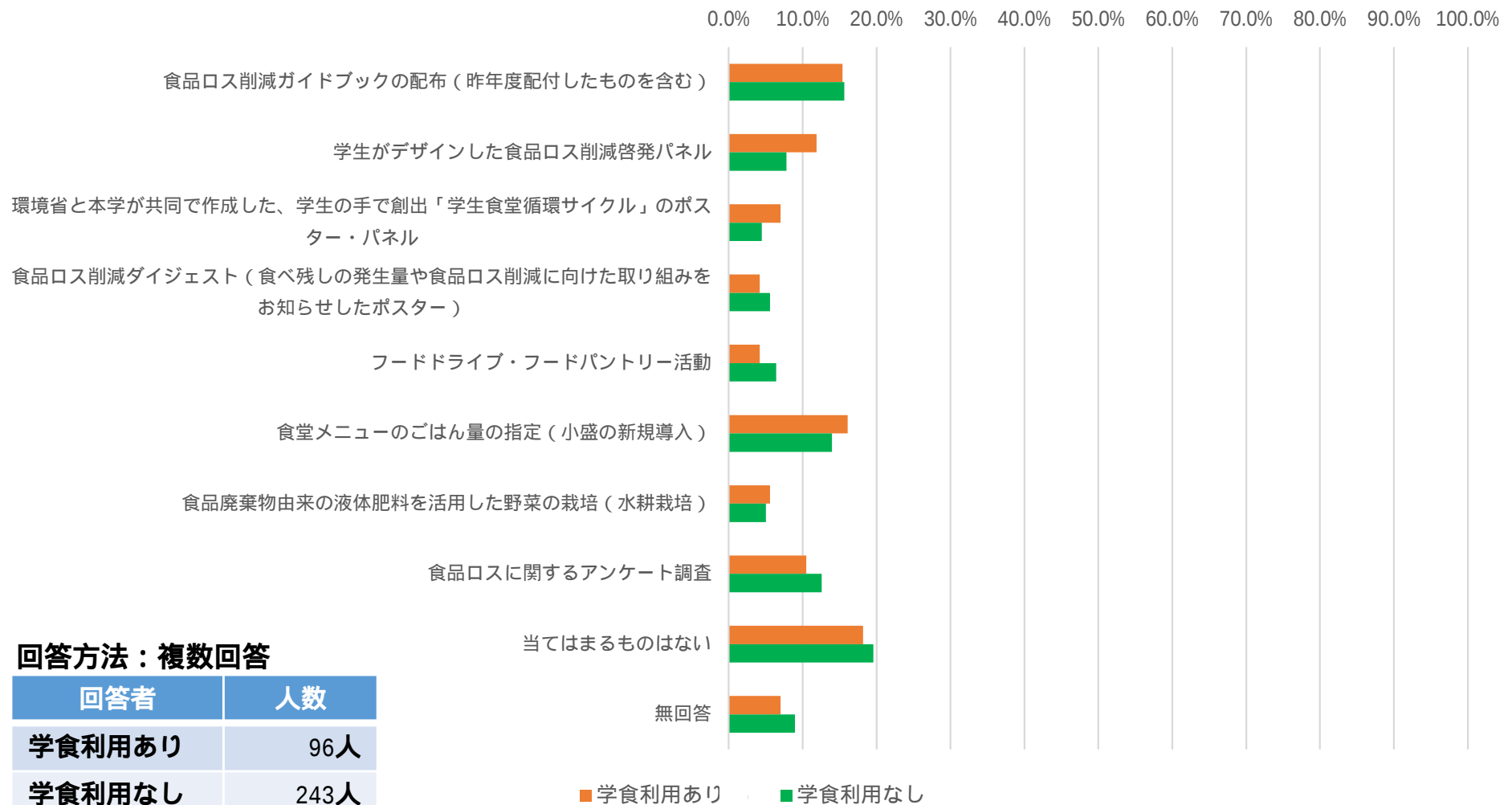
（ただし、「普通」「大盛」が適量の利用者もいるため、「小盛」を選択する者が100%になることはない。）

Q7 . 学校内での取り組みの中で、ご自身の食品ロスの意識づけに役立ったと思うものを教えてください 複数回答可



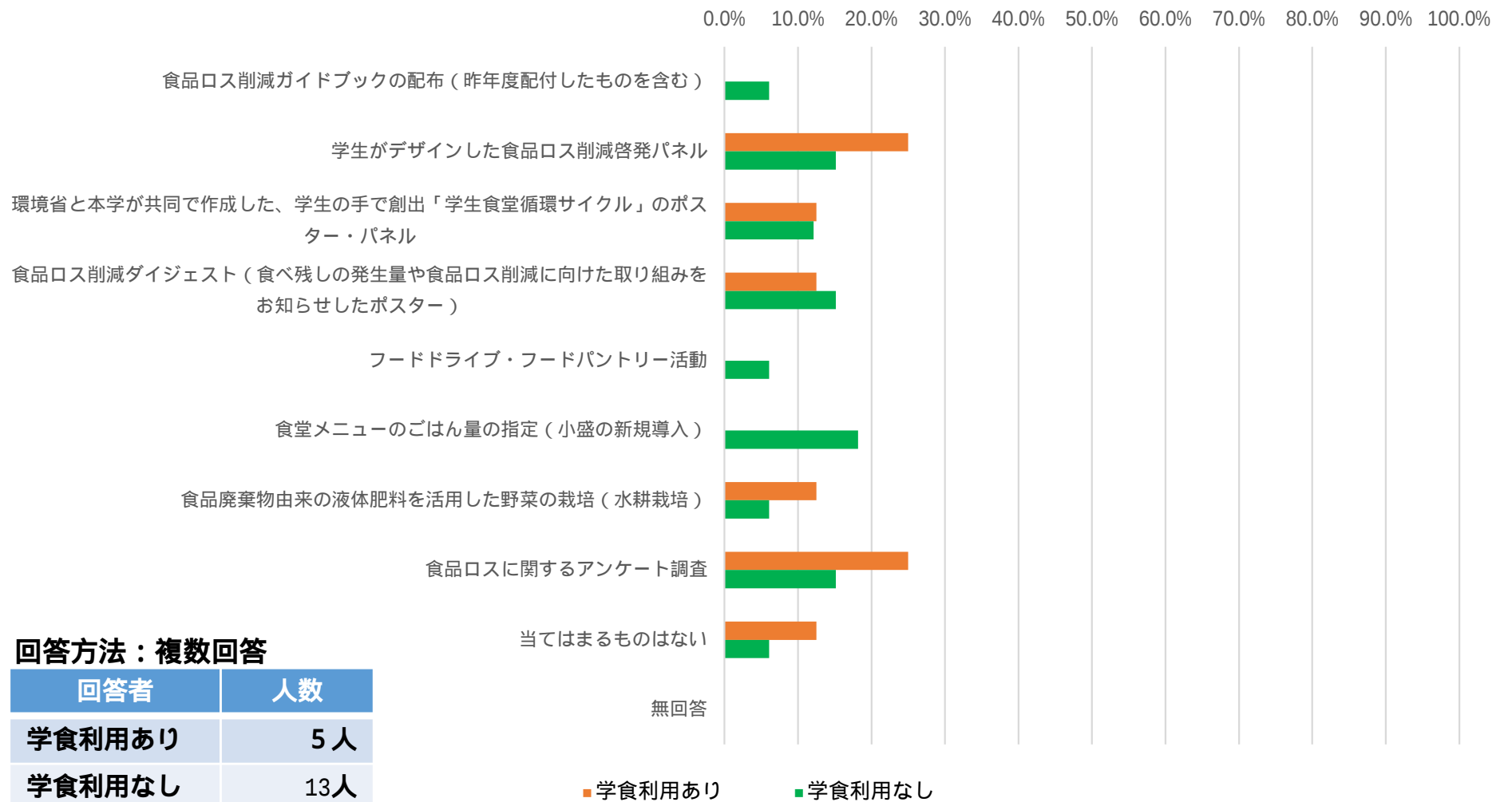
(注) 本設問は複数回答可であったが、回答者の多くは単数選択にて回答していた。各選択肢の回答率が全体として低い傾向となった一因と考えられる。

図15 - 2 高校全体



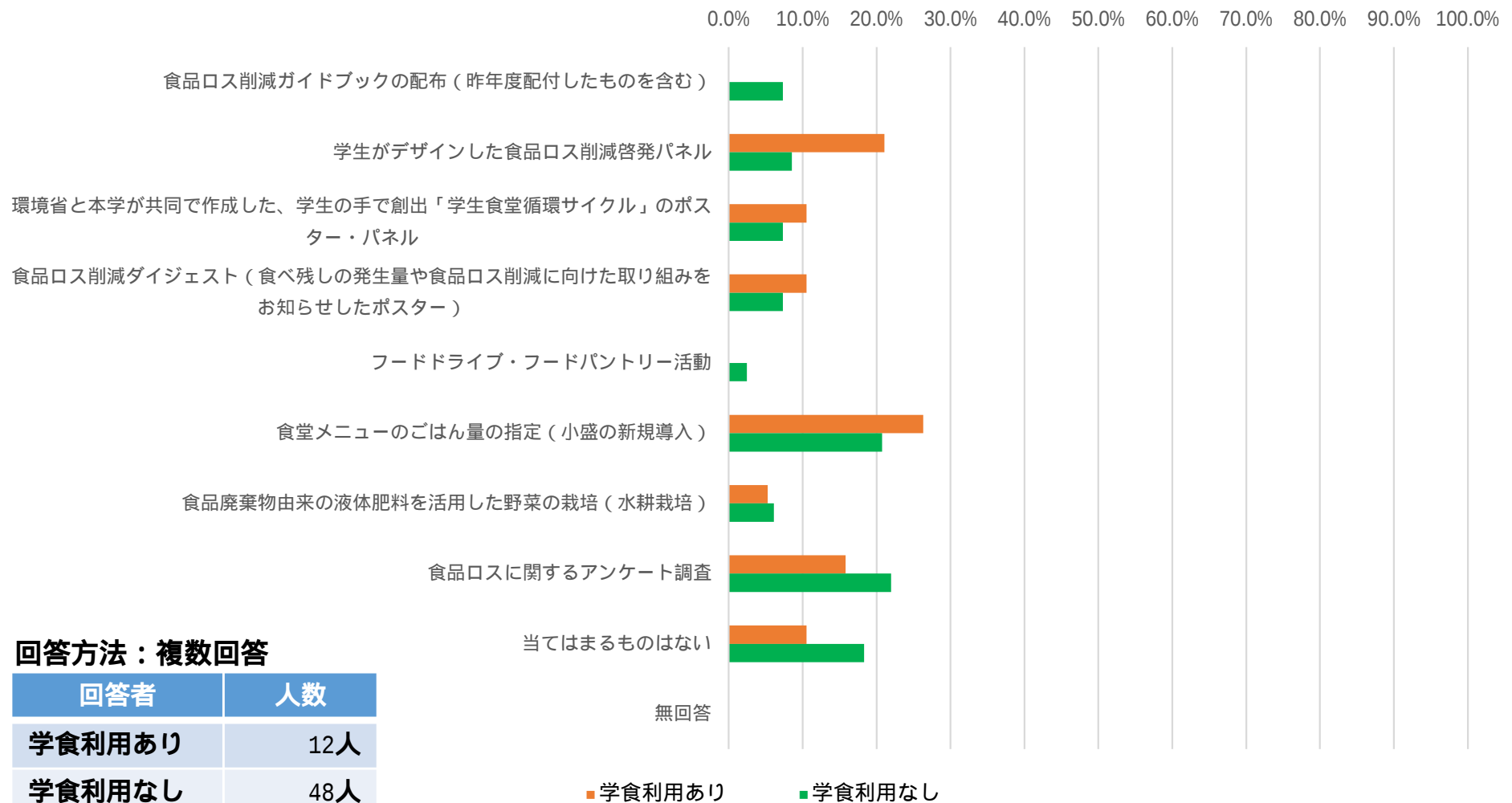
（注）本設問は複数回答可であったが、回答者の多くは単数選択にて回答していた。各選択肢の回答率が全体として低い傾向となった一因と考えられる。

図15 - 3 大学・短大1年生



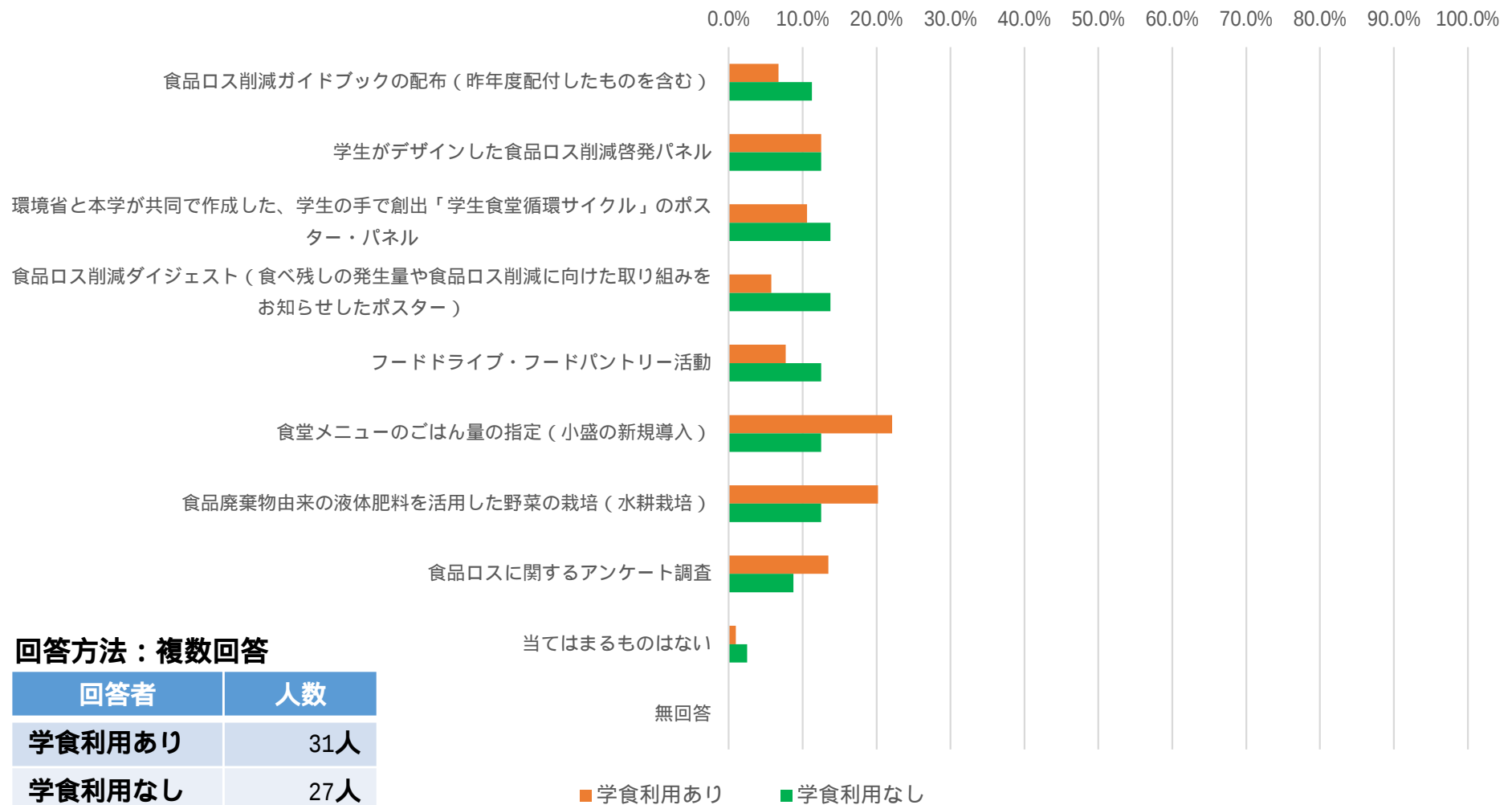
（注）本設問は複数回答可であったが、回答者の多くは単数選択にて回答していた。各選択肢の回答率が全体として低い傾向となった一因と考えられる。

図15 - 4 大学・短大全体



（注）本設問は複数回答可であったが、回答者の多くは単数選択にて回答していた。
各選択肢の回答率が全体として低い傾向となった一因と考えられる。

図15 - 5 教職員



（注）本設問は複数回答可であったが、回答者の多くは単数選択にて回答していた。
各選択肢の回答率が全体として低い傾向となった一因と考えられる。

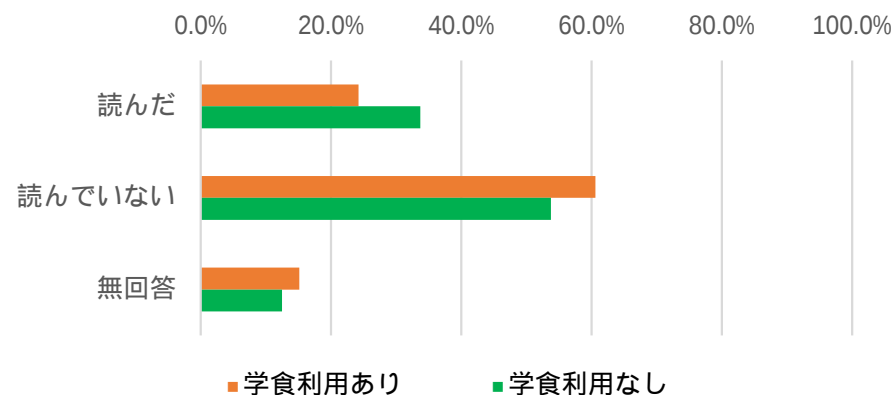
考察

学食利用者は、「学生がデザインした食品ロス削減啓発パネル」や「食堂メニューのごはん量の指定」など、学食内で接する機会があるものを支持しており、学食内での啓発活動は一定の効果があると考ええる。

学食を利用していない者は、ごはん量の指定といったわかりやすいものを除き、校舎内で行われた「食品ロスに関するアンケート調査」や「食品ロス削減ガイドブックの配布」の支持が強く、学食での啓発効果を得ることはできないため、手に取ってもらえる啓発資材を増やしていくことが課題である。

Q 8 . 学校から配布した食品ロス削減ガイドブックを読みましたか？

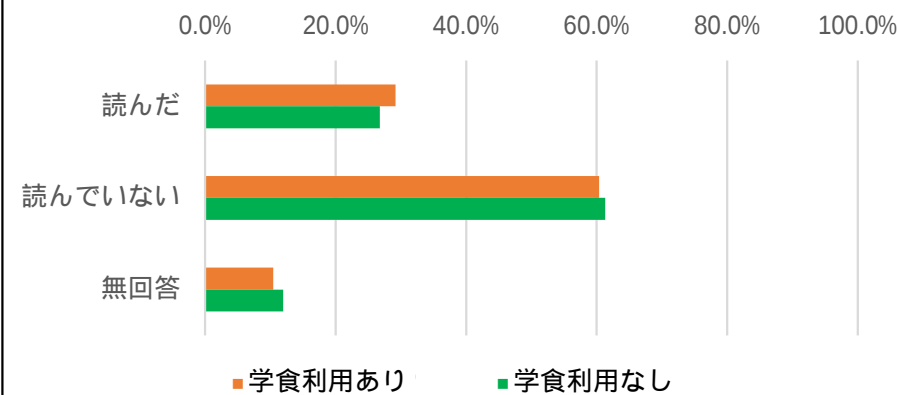
図16 - 1 高校 1 年生



回答方法：単数回答

回答者	人数
学食利用あり	33人
学食利用なし	80人

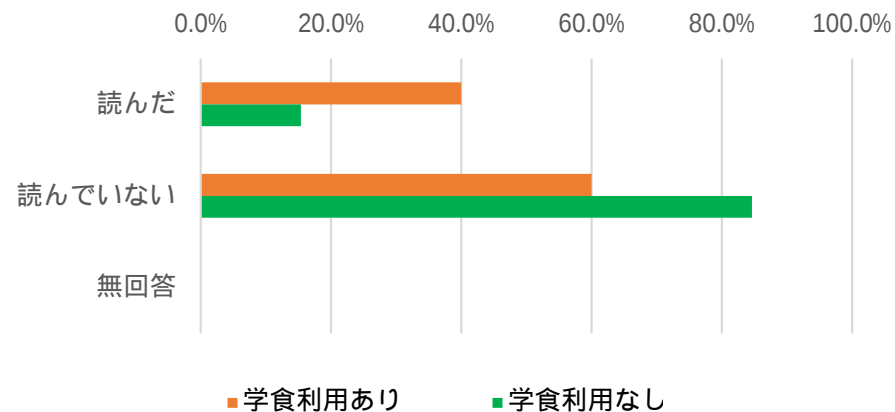
図16 - 2 高校全体



回答方法：単数回答

回答者	人数
学食利用あり	96人
学食利用なし	243人

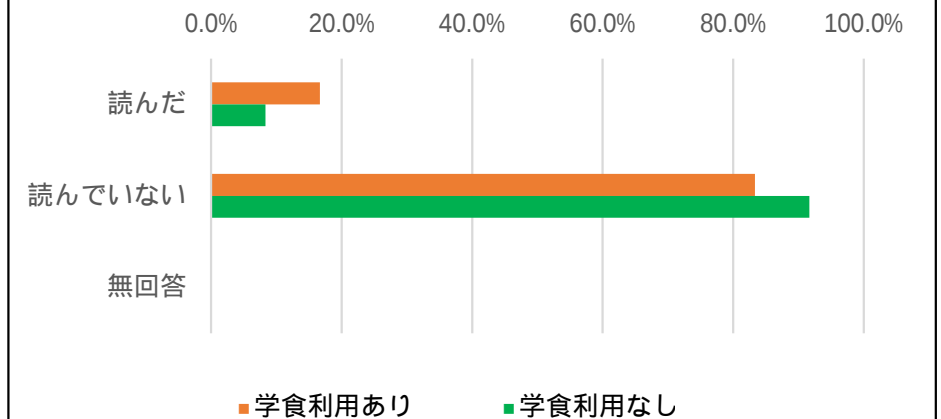
図16 - 3 大学・短大1年生



回答方法：単数回答

回答者	人数
学食利用あり	5人
学食利用なし	13人

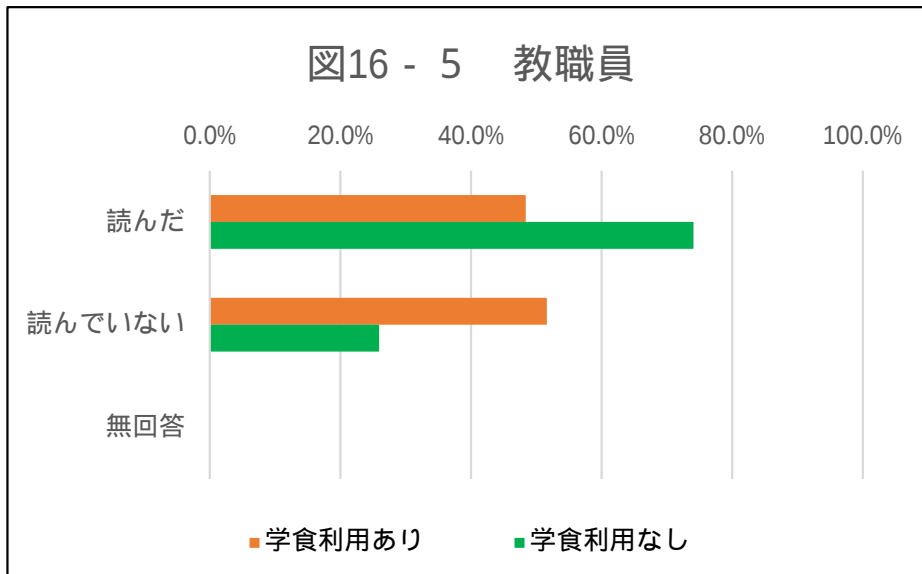
図16 - 4 大学・短大全体



回答方法：単数回答

回答者	人数
学食利用あり	12人
学食利用なし	48人

大学生・短大生については、回答者数が限られたことから、考察は難しいと判断した。



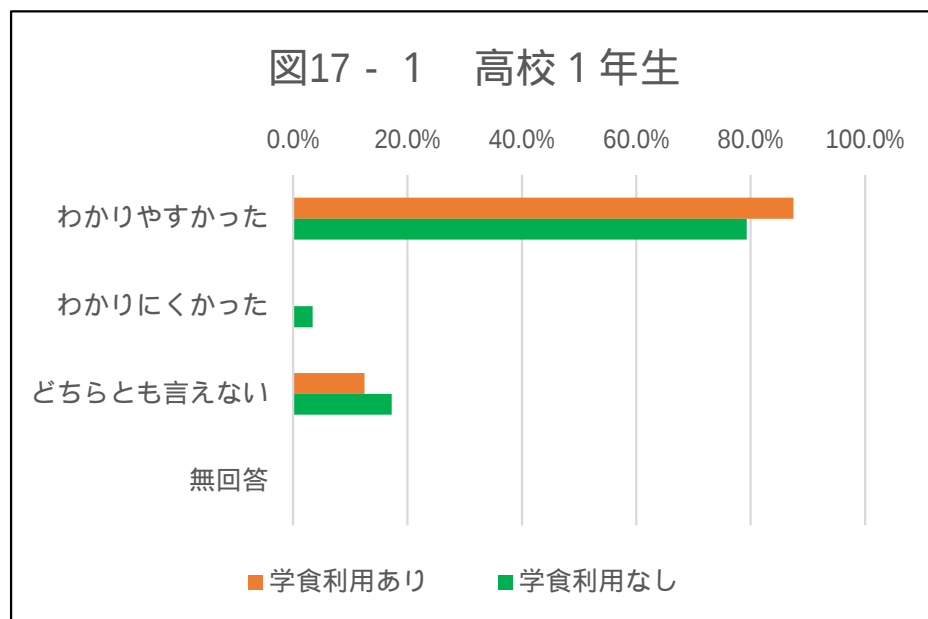
回答方法：単数回答

回答者	人数
学食利用あり	31人
学食利用なし	27人

考察

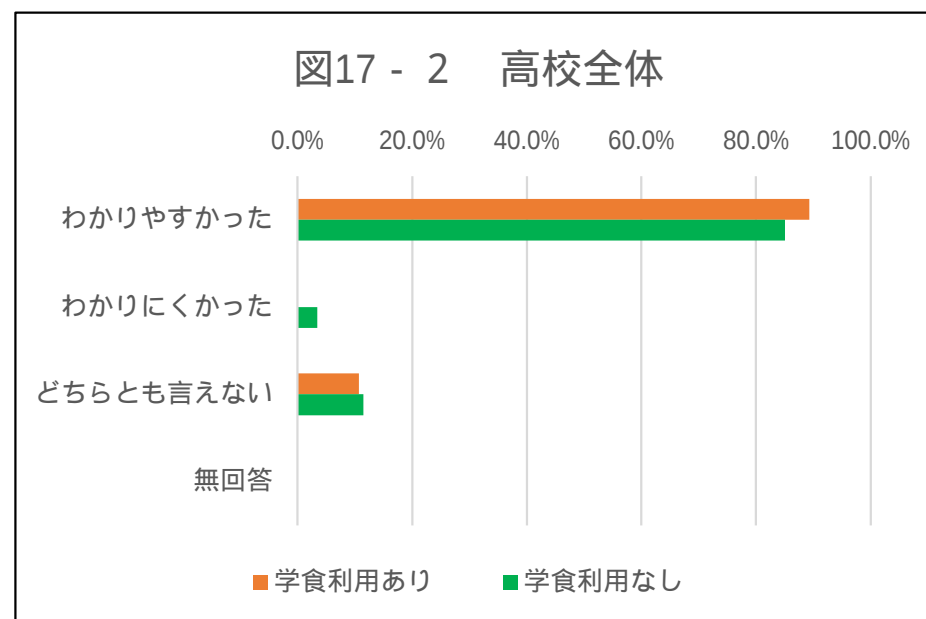
読んでいない者が多いため、手に取ってもらえるような手立てを考える必要がある。

Q9 . Q8で「読んだ」と回答した人にお聞きします。内容はわかりやすかったですか？



回答方法：単数回答

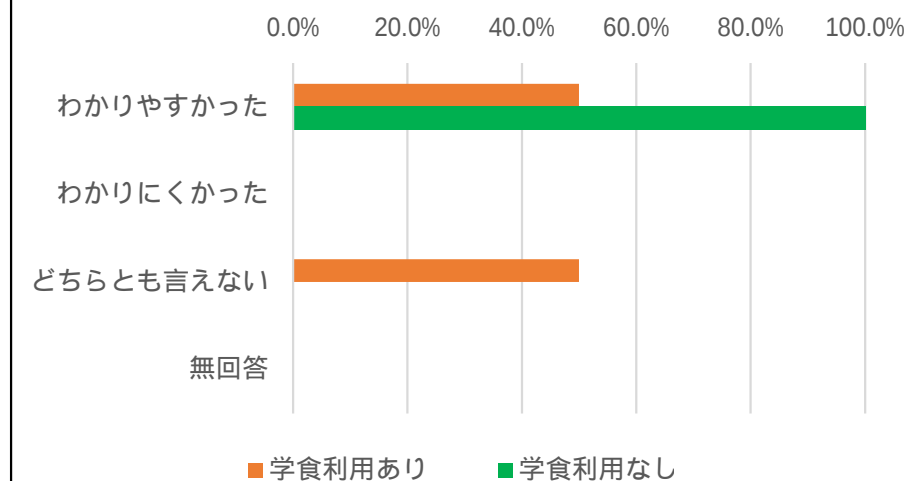
回答者	人数
学食利用あり	33人
学食利用なし	80人



回答方法：単数回答

回答者	人数
学食利用あり	96人
学食利用なし	243人

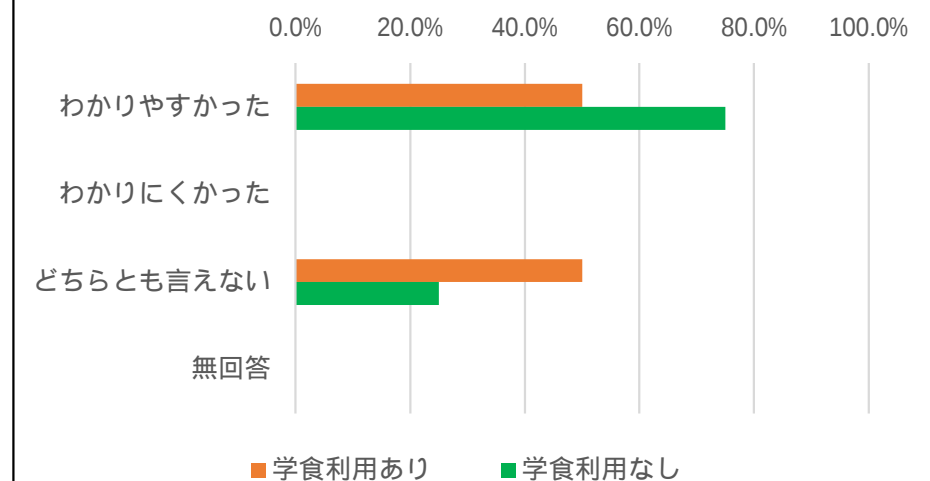
図17 - 3 大学・短大1年生



回答方法：単数回答

回答者	人数
学食利用あり	5人
学食利用なし	13人

図17 - 4 大学・短大全体

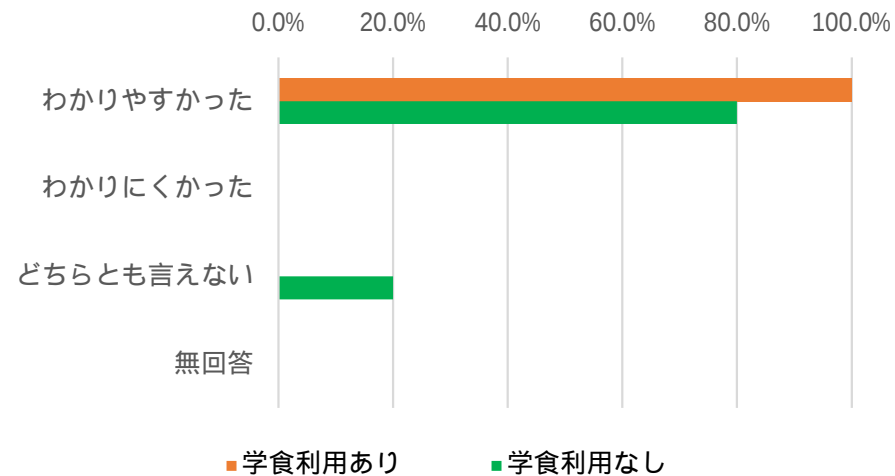


回答方法：単数回答

回答者	人数
学食利用あり	12人
学食利用なし	48人

大学生・短大生については、回答者数が限られたことから、考察は難しいと判断した。

図17 - 5 教職員



回答方法：単数回答

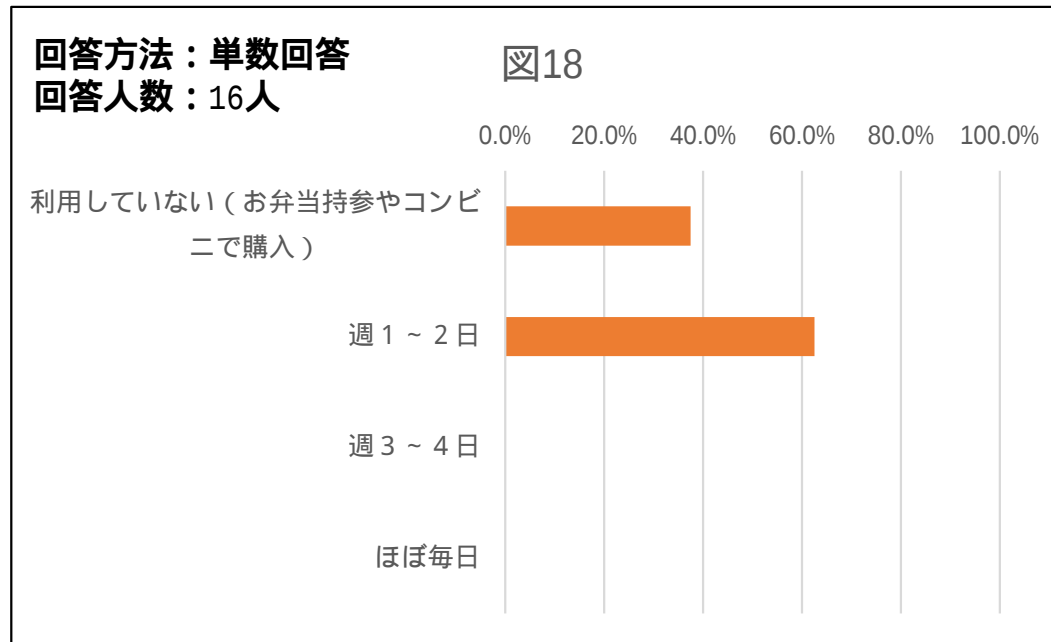
回答者	人数
学食利用あり	31人
学食利用なし	27人

考察

「わかりやすかった」という意見は多く、ガイドブックそのものは好印象であるため、手に取ってもらえることができれば、食品ロス削減の意識向上につなげることは可能だと考える。

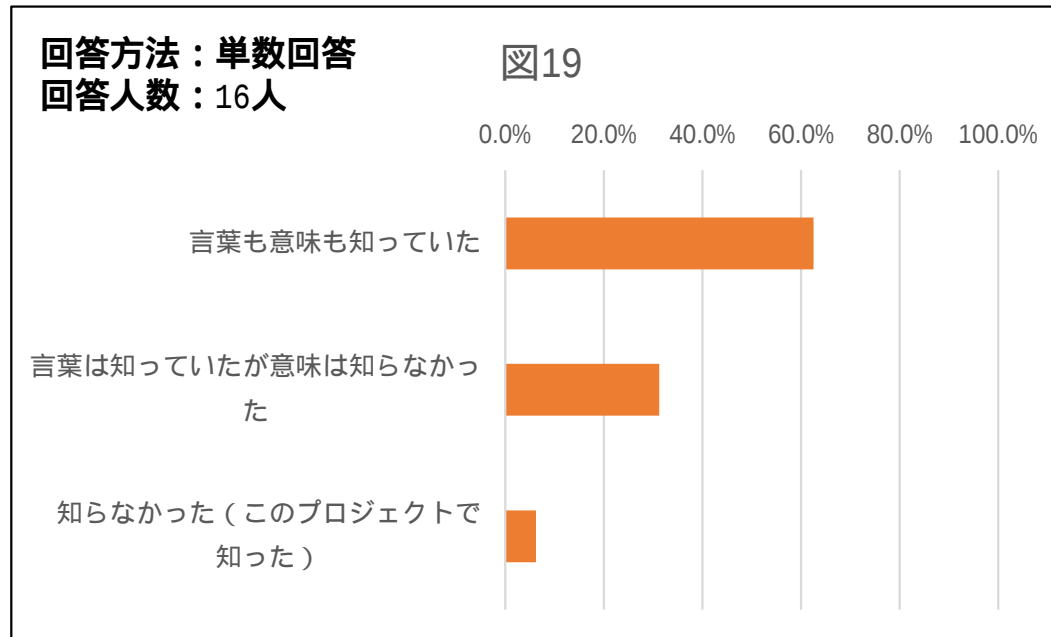
学生ボランティアアンケート

Q1 . あなたが昼食に学生食堂を利用する頻度を教えてください。



考察
食堂をよく利用する学生は見られない。

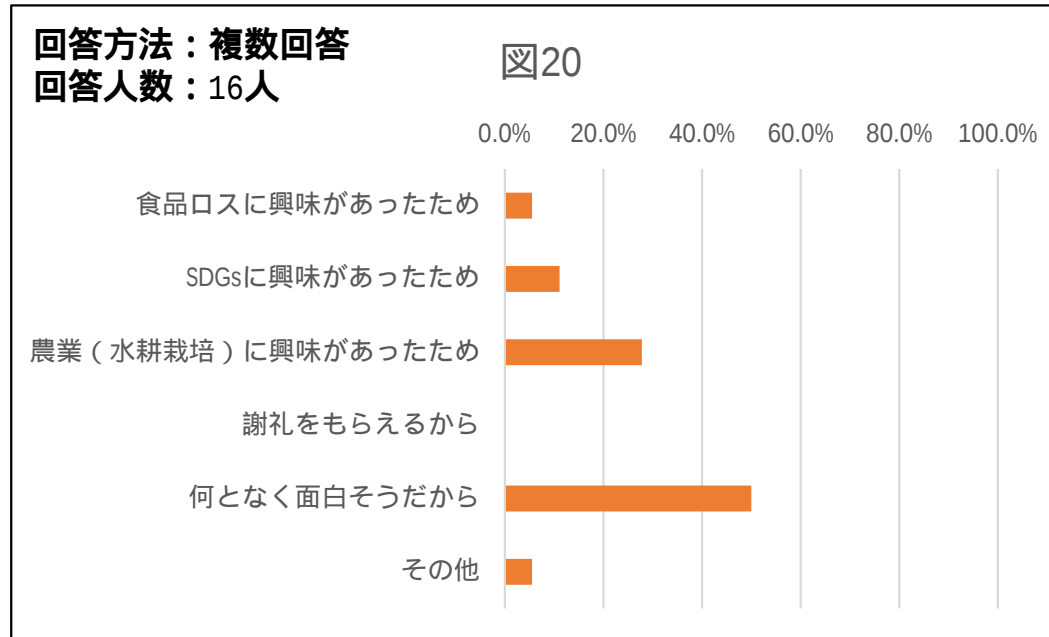
Q2 . このプロジェクト参加以前において、あなたは「食品ロス」という言葉とその意味を知っていましたか？



考察

言葉も意味も知っていた学生が多い。

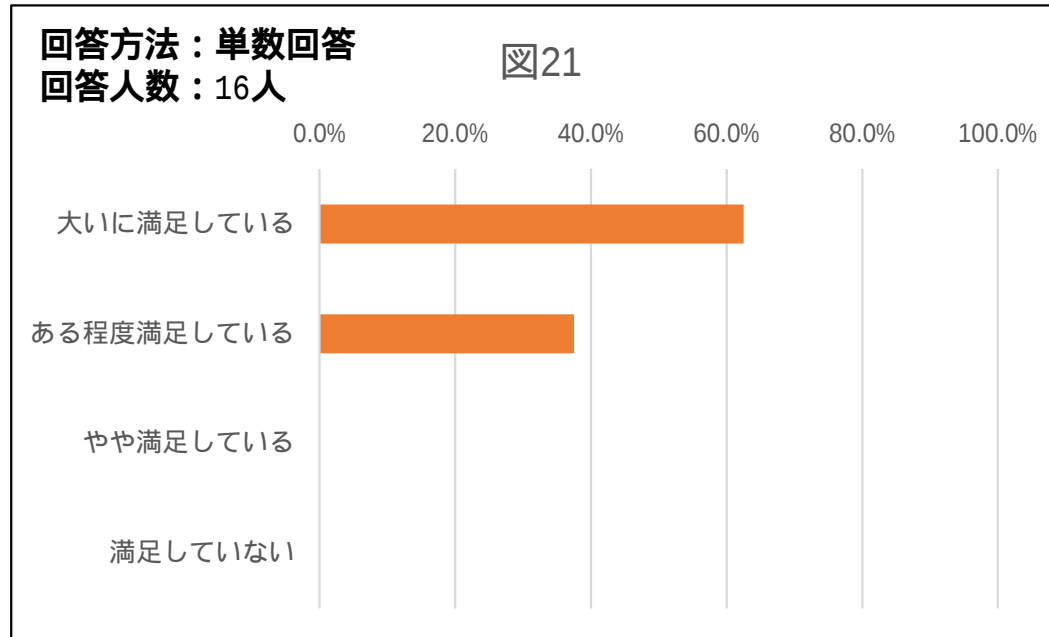
Q3. このプロジェクトに参加した理由を教えてください。



考察

「何となく面白そうだから」や「農業(水耕栽培)に興味があったため」という理由で参加した学生が多い。

Q4. このプロジェクトに参加してどのくらい満足していますか。



考察

プロジェクトに参加して満足している学生が多い。

Q5. このプロジェクトに参加して印象に残ったこと、自身の気付き、感想をお聞かせください。

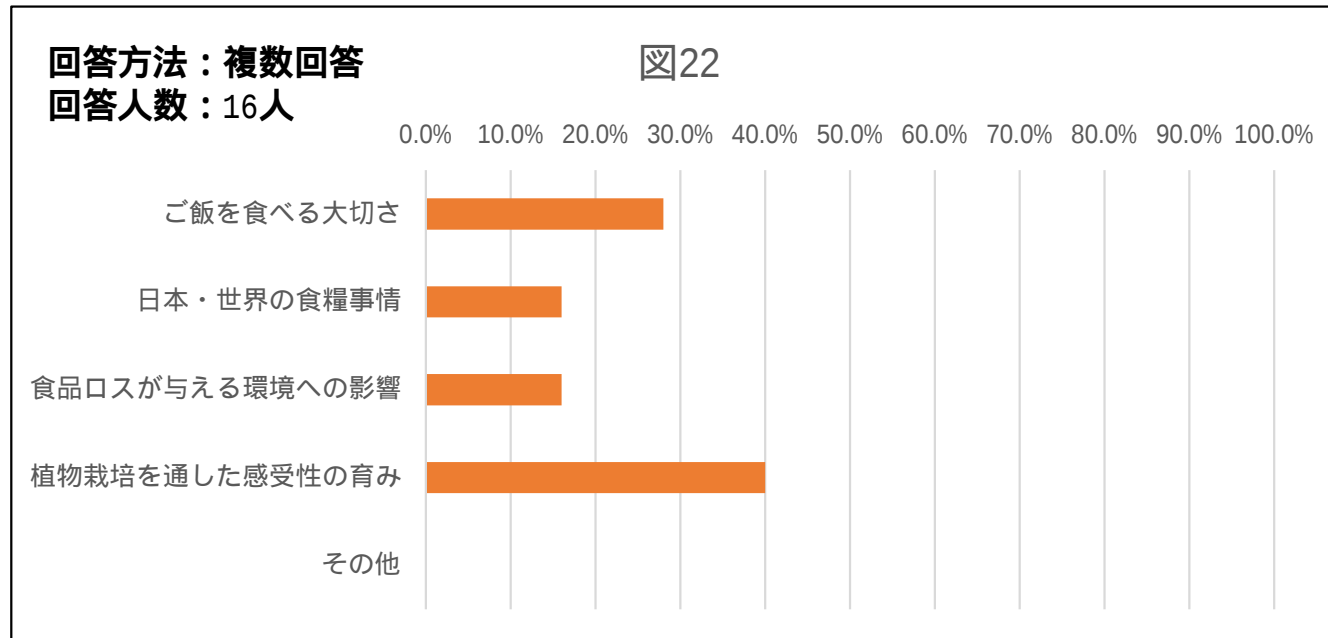
- ・野菜が育っていく過程をみるのが楽しかった。
- ・成長している（野菜の）様子を食堂に来て見ることが楽しかった。
- ・食品廃棄をむだにしない方法があることを学べた。
- ・廃棄物が肥料になるので、すごくエコだと思った。
- ・食物の大切さ、また食べ残しや廃棄物がまた新たに生まれ変わることに感動した。
- ・土以外でも水と肥料で野菜が作れることに感動しました。どの野菜もしっかり育ってくれて嬉しかったです。
- ・水耕栽培はもっと大がかりなものだと思っていたが、自分たちでも取り組めることを知れた。
- ・水耕栽培でじゃがいもが育つと思っていたなくてびっくりした。
- ・水耕栽培で様々な野菜を育てることに対して、育った野菜を実際自分が食べていることにとても満足感を得ている。とても参加していて楽しいです。
- ・一般的な外での栽培と水耕栽培で植物の成長に差がないことに驚きました。
- ・食べ残したものが肥料になること。
- ・身近な関わりであっても、食品ロスに関連して行動できることを知った。
- ・食品廃棄物を捨てずに肥料として使っていること。食べ物が捨てられている現状（ものすごくもったいない。）

- ・今までは食品ロスというものがあまり身近なものではなかったが、プロジェクトに参加して自分にもできることがあると知ることができた。
- ・食べ残しが肥料になっていること。

考察

水耕栽培がとても印象に残っている学生が多く、野菜を育てるの中で食べ物の大切さや食物残渣（食べ残し等）の活用について考えることができています。また、身近なことで十分に食品ロス削減に貢献できることが理解されている。

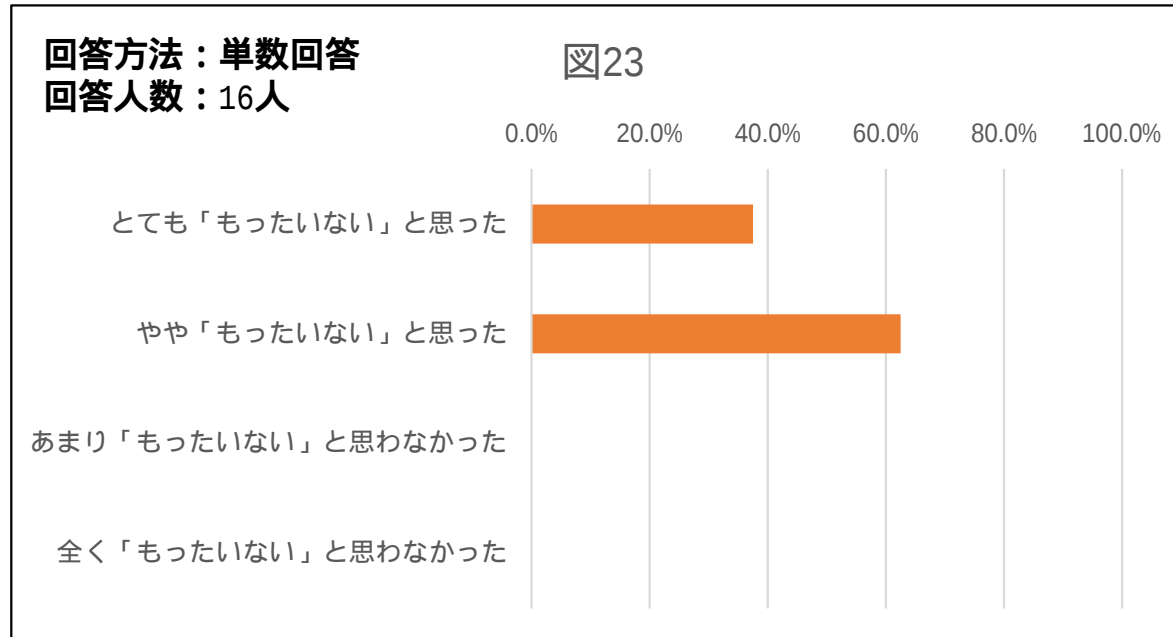
Q6.このプロジェクトを通して学んだこと教えてください。



考察

植物栽培を通した感受性の育みが最も多いが、食べ物や食品ロスについてもプロジェクトを通して学ぶことができる。

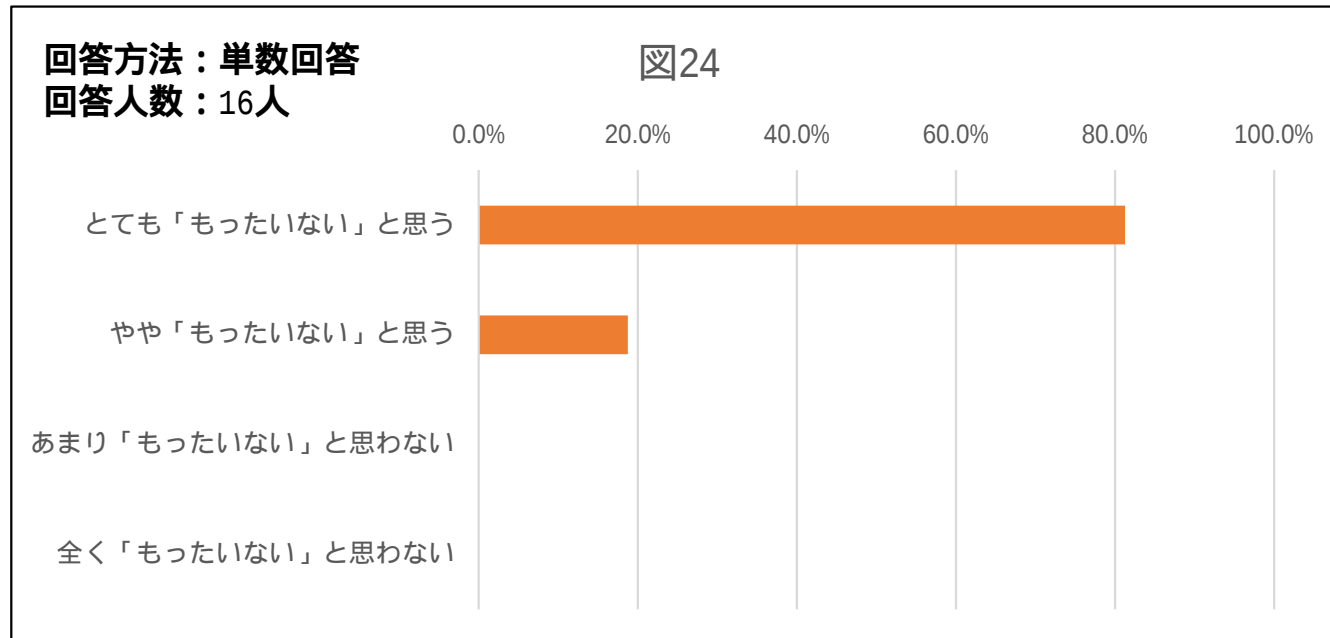
Q7.このプロジェクトへの参加以前は、「食品ロス」についてどのように考えていましたか？



考察

「もったいない」と思わない学生はおらず、「ややもったいない」と思う学生が62.5%で、次いで「とてももったいない」と思う学生が37.5%である。

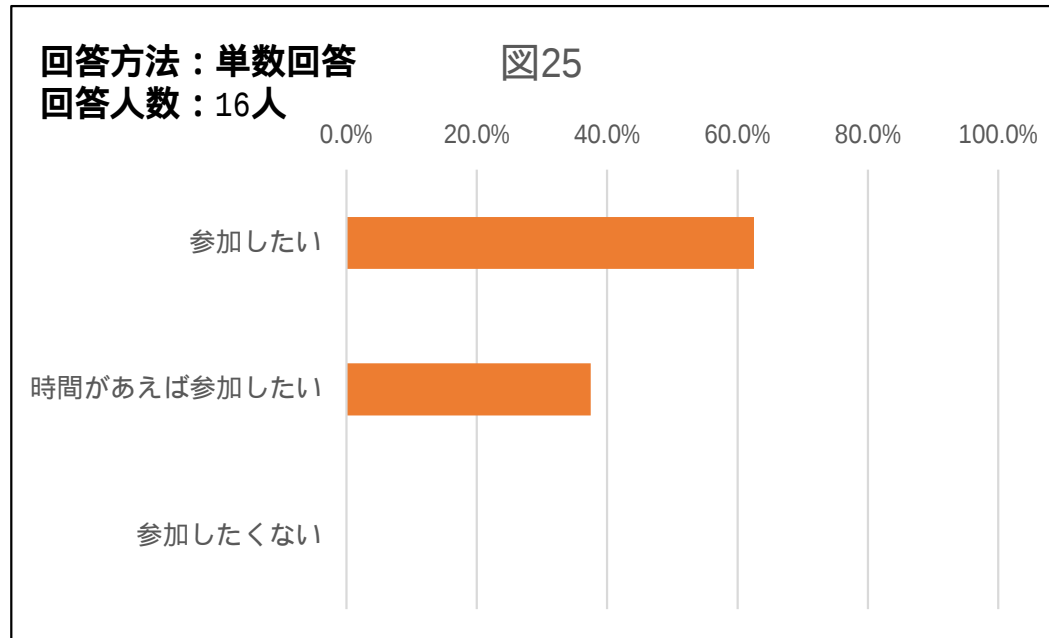
Q8.このプロジェクトへの参加以後は、「食品ロス」についてどのように考えますか？



考察

プロジェクト参加により食品ロスに対する意識が育まれ、「とてももったいない」と思う学生が参加前の37.5%から参加後は81.3%まで上昇した。

Q9. また、このようなプロジェクトに参加したいと思いますか？



考察

プロジェクトに参加した学生全員がまた「参加したい」または「時間があれば参加したい」と回答しており、本プロジェクトが食品ロスについて考える有効な手段であったと思われる。

Q10. このプロジェクトに関連して、もっとこんなことをしてみたいという要望があれば、教えてください。

- ・ 果物をやってみたい。**
- ・ みんなで作った野菜で炊き出しとかご飯つくってみたいです。いちごとか果物、えだまめも育ててみたい。**
- ・ たくさん野菜を増やして、根菜などにも挑戦したい。**
- ・ いろんな植物を育ててみたい。**
- ・ 無農薬についてもっと知り、1階のレストランとも共同活動するとともに食事をして食べ物があることのありがたみを知る。**

Q11. プロジェクト参加者への謝礼（学生食堂の丼ぶりの食券を配布）はいいかかでしたか？今後、スタッフを継続して募集することを踏まえてご意見をお聞かせください。

